

平成28年(西暦2016年)8月

瞑想録(その14)

滝沢 無縛(たきざわ むばく)

この一連の瞑想録の主題は、「素朴な疑問と意外な気づき」です。誰もが当たり前だと思っていることを懷疑しおよそ人が気付かないことに気づこうという、自己流哲学の瞑想集です。ちなみに科学ではありませんし、科学が万能だとも思っていません。科学でない最大のポイントは、あまたの思い付きについて証明を一切拒否していることです。私にとって証明行為は、つまらない時間の流れに過ぎません。内容は気づいた順に並んでいるので、一見ランダムで読みにくいかもしれません。

なおこの論集の一連は下記のサイトに全部収容してあります。

<http://www.geocities.co.jp/bimromav13/>

<https://sites.google.com/site/mubaku133/>

この一連の論集は下記のブログの主要記事を集めたものです。

<http://blogs.yahoo.co.jp/oseh13>

2015. 06. 11

1、心象移入

事物を理解すること、具体的には他人の言明を理解するとか小説や絵のモチーフを理解するとかあるいは料理のうまみを理解するとかです。これら「形の理解」は、心象移入の行為が基本です。ここで心象移入とは、相手や対象の発する情報をもとにその情報から相当するモチーフを自分の脳内に設定するという写像作業です。

仮に情報源が絵画や音楽であってもその絵画を作り音楽を奏でるのは人です。ですから心象移入とはこれらの媒体を通して制作者の脳空間にあるモチーフの心象を、できるだけ正確に自分の脳内に移植する行為です。対象が作品でなく四季自然そのものである場合には、元になる心象は天の理(ことわり)になります。

「理解は連想だ」と言う、言い古されてカビが生えた説明があります。そして確かに連想の場合もあるのですが、これではニュートンの古典力学ほど凡庸でつまらないです。それにそもそも「連想のメカニズム」と言う一番知りたいところまで掘り下げていません。掘り下げていない以上それは言葉の無駄に過ぎません。

瞑想録(その14)

心象移入とは「同じ状況に置かれたとして私だったらこう感じこう対応するだろう」と言う、いわば拡張され客観化された感情移入です。そして相手の作品や態度から発せられるメッセージはほぼ自動的に、自分の脳空間に可能な限り近い心象位置を決定し位置決めします。

そして受け手は自ら行った脳内ポジショニングに応じて、そのポジションなら自分はこう感じるとか、自分ならこう対応するとかの対応を講じていきます。もちろんそのポジショニングやその後の連想対応は常に正しいとは保証されませんが、各個人の脳空間の形成はほぼ共通の本能と経験に依っているのです、かなりの場合許容範囲や想定範囲内に落ちます。こうして反応された元の発信者も、往々にして次の段階に進めるわけです。いわば「自分へのはめ込み」の応酬です。

次いで「心象移入の機構が連想だけではない」について説明します。まず連想は心象同士の共通なタグで推移していきますが、これは脳内ポジショニングの微妙な違いで発火するタグが異なってきます。加えてタグの発火は古典力学のように条件が同じなら結果も常に同じということではなくて、常に量子力学の揺らぎが存在します。

そして一番大事なことです。脳内の素子であるシナプスとニューロン、これらが「1気づきに対し1素子」と言う対応の仕方はしていません。むしろ同じ素子がつながりを変えることによって意味を変えて、ほとんど無限通りの使われ方をします。人が事物に集中しているときに別のことを言われても、考えが及ばないでしょう。これは人の脳が1つのことを考えるときに既に脳のほとんどの素子を使っている証拠です。もし各素子が1つの目的にしか使われていないのなら、同時に多くのことを並列処理することができるはずです。

このように同じ素子が複数の事項に関わっているために、脳内でものを考えるときにその素子の「別の使われ方をした場合」が発火してしまうことがあるのです。このような発火の仕方のほとんどは雑念として廃棄処理されますが、時に誰も思いつかないような異形な気づきに至れます。天才的なひらめきです。ただこのような迂回路が多すぎると、その人は精神異常や統合失調症と診断されるかもしれません。天才と気違いは紙一重なのです。

でも逆にこのような発火の迂回が全くない人はほとんど機械と同じ独活(うど)の大木で、ひらめきの全くないつまらなくて愚鈍な人です。人のあだ名もつけられなければジョークの1つも言えない、発見の一つもできないひらめきが零の人です。

瞑想録(その14)

ですからクリエイティブな脳とは適度な発火の迂回がある人で、その発火の迂回の傾向がその人の持ち味と言うことになります。以上をまとめますと人の機敏なやり取りのキーポイントは、①心象移入(その人の頭になってみる)と②発火の適度な迂回、と言うことになります。これらが健全ならば世の中も健全でやり取りに同意と味が同時に出てきて、円滑な社会活動を行えます。

加えて大事なのがすでに何回も繰り返してはいますが、③「類似のものを同じであると同類項にまとめる柔軟な能力」です。「同じものを同じと認識する」ならば鳥だってできます。むしろこれしかできないので、「モズの餌忘れ」が起きてしまうのです。人が優秀なのは似ているものもひとくくりにできることです。類似物をひとくくりにすることにより新たな心象が独立に誕生して、脳内ネットワークのノードがノッドになって心象をより微妙な方向に増やしていけるのです。

もう一つ大事なのが、やはり何回も繰り返していますが、④「形による理解」「モチーフによる理解」と言うアナログ的な能力です。この本質を質として見抜く能力により、1作品や1場面が脳内にポジショニングできて新たな心象となり、以後使えるわけです。

こうして形成され続ける心象とそれをうまく組み合わせる心象移入及び発火の迂回、脳の作用の基本は以上でほぼ理解できるでしょう。

2、いろいろな自己引証

自己引証と言うのはある言葉の説明にその言葉自身が入っていて、結局説明として不完全で理解もできないという種類の矛盾です。先日も例に挙げましたが、「約束は約束だ」とか「私は私だ」が良い例です。分かっている人にはわかるのですが分かっていない人には永遠にわからないという形で、結局何の説明にもなっていません。

やはり先日説明しましたがこの手の自己引証には正解はなくむしろどんな説明も正解になり得て、その説明の正誤でなく優劣を文脈で判断する形になります。これは典型的な禅問答です。「約束は約束だ」での約束の意味も、「守らないと信用を無くす絶対的な決め事だ」と言う解釈も、「どうせ口の上で証拠なんかないから無視してしまえ」と言う解釈も成り立ちます。「守らないとどうなっても知らないぞ」と言う文脈なら前者が、「いいから忘れちゃえよ」と言う文脈なら後者が優れているでしょう。

先日やはり言及した「テネシーワルツ」、歌詞は「恋人とテネシーワルツを踊っていた

瞑想録(その14)

ところに旧友が来たので恋人を紹介したらその友達に恋人を盗まれてしまった」というもので(ウィキより引用)、歌詞の中にやはり「テネシーワルツ」と言う言葉が入っていて自己引証になっています。ただしここでは歌詞の一部として入っているだけで歌詞の多くの部分は独立に理解可能なので、その感じから「きっと悲しいワルツなのだな」と思うのが普通でしょう。でもタモリ風のナンチャッテ、「悲しく聞こえるけど実はオチャラケなワルツなのだよな」と言う解釈もあり得ます。

もしここで「ウイナーワルツ」と言う曲名の曲を作って、歌詞を単に「ウイナーワルツ」としたらどうでしょう。一般名詞を固有名詞に転化することへの引っ掛かりはありますが、矛盾はありません。「テネシーワルツ」の語は周知でないで誰もその内容を知りませんが、ウイナーワルツについては一定の合意や理解があります。ではテネシーワルツの歌詞が「ウイナーワルツ」だったらどうでしょうか。ウイナーワルツについて既にある一定の理解により、テネシーワルツも理解した気になります。テネシーワルツの語が初出で誰にも合意や理解がないので、この自己引証が引っ掛かるわけです。

さてここでテネシーワルツの歌詞が「この曲はテネシーワルツではない」だったらどうでしょう。もっと端的に「私は私でない」とか「約束は約束でない」とか「この集合は自分を元に含まない」と言っただろう関係での自己引証も考えられて自己引証は実は多様なのですが、今は「曲名とその歌詞」の関係で見てみます。

例えば土砂降り雨の絵に「晴れ」と言う題をつけたらどうでしょう。誰も「嘘だ」とは思いません。「きっと晴れを待ち望む心象だな」と、むしろその余韻に感心することでしょう。雪景色の絵に「春」、闇夜の絵に「夜明け」、いずれも同様です。さらに進んで雪景色の絵に「冬ではない」と言う題名をつけたらどうでしょう。理屈上は同じことなので許容されるはずですが、素朴にちょっとおかしいですね。心象が微妙に異なってくるからです。でもここで題名を単に「分類記号」、つまり「A」とか「B」とかつけたようなものだと思えば問題ありません。役割は区別しかないので。

このように自己引証は、引証するものと引証されるものの同一性を断ち切れれば、とりあえず問題はなくなります。そして「曲名と歌詞」あるいはもっと広く「題名と内容」、この関係は両者を断ち切りやすい関係になっています。では「約束は約束だ」は断ち切れるでしょうか。少なくとも「題名と内容」よりは難しそうですが、「約束Aは約束Bでない」「昨日の私は今日の私ではない」とすればやや強引ですが一応断ち切れます。

ちなみにテネシーワルツのような例は結構多くて文部省唱歌の「春の小川」も夏目漱

瞑想録(その14)

石の「吾輩は猫である」も該当するのですが、誰も自己引証を問題にしません。かぶっている部分はほんのわずかでありかつ既知で、内容の理解に何の障害にもならないからです。その意味ではテネシーワルツの歌詞はかぶり方と初出ぶりが、ちょうど悩ましいところにあるとも言えます。

さらに別の関係にある自己引証を見てみましょう。「社内会議には常に議題がある」と言う主張です。一見するとどこにも自己引証がないように見えますが、自己引証はその理由の方にあります。今の断定の理由は、「もし議題がないとするならばなぜ議題が出ないほどに士気が低いのか議題に上がるからだ」からです。このように解消しなくても解決できる自己引証もあります。

そもそもの元祖の自己引証は、「クレタ人は嘘つきだ」と言う聖書の言葉でした。これを言ったのがクレタ人だったので、自己引証になってしまいます。もっと単純に「私は嘘つきだ」、これは「私は私でない」以上に強固な自己引証で、もはや引証関係の分離は不可能です。分解不可能だということは真の矛盾だということですが、私はこれを絶対論理の破たんであるとみています。つまり数字や四則演算や合同関係からなる有次元空間をもとにした数学は、その単純性により多産な代わりに、実は破たんしているところでは体よく塗りつぶして見えなくしているだけなのです。むしろ「破たんしているから面白い」と言う態度の方が、生きた感覚の証です。

もう一つの有名な自己引証の形に、「自分自身を含む集合」の矛盾があります。これは含む、つまり「元となる」と言う関係における自己引証です。この自己引証も数学の破たんですが、蓋然論理の立場からは①集合の階層構造に無理や不自然がある、②自分を含む集合と含まない集合の2種にきれいに割れるという思い込みに無理がある、を指摘しておきます。

従来の集合の典型例を挙げます。「弾性体はゴム、ばね、スポンジの3つを元とする集合である」。ここでは「弾性体はゴム等より抽象度が高いから上位に来るべきだ」と言う暗黙の主張が介在しています。無限を素の元として数字等の有限を二次的なものとするアナログ集合の立場からは、この抽象度の違いを認めはしますがことさらに根拠としません。「弾性体はゴム、ばね、スポンジを典型例とする弾性のある全てのものである」と、横に置く立場をとります。

この言明においてもテネシーワルツと同様の自己引証はありますが、先ず例示の方が強烈で理解可能です。加えて仮に将来に技術の発達で第4の弾性体が登場したとしても、集合の立場からは「これを元として追加することにより別の集合になってしまう」

瞑想録(その14)

という不自然さが出てくるのに対して、アナログ的例示の場合には「実例の追加」で無理なく収まってしまうという自然さがあります。

本日は自己引証にも多くの種類があることを見ました。

3、宣伝考

宣伝、広告、この言い方自体が既に古くなってしまった。今だったらCMとかCFとかPVとか言うのだろうか。この分野もゲーム業界と同様に実は時代の最先端技術が凝縮している割に、その芸術性と先端性と知能集約性が十分に評価されていない分野である。金銭の出し入れに直結しているためだろう。

もちろん糸井重里さんのような有名人も居るが、ほとんどのコピーライターは業界内でしか知られていない。だが、人が自分の人生をその折々の流行歌に関連付けて思い出すように、誰にも思い出に残る少なくとも聞けば懐かしく思い出す宣伝の10や20はあるはずだ。

しかも、「宣伝で初めて使われた」と言う技術や様式も多い。例えば麒麟ビールは100年も前に車の荷台に大きなビールの模型を据えて町中を走らせたが、これは当時の新アートの原型である。またサントリーは早くも大正時代に「赤玉ポートワイン」の宣伝に女性のセミヌードを採用して、大いに話題になったこともあった。飛行船だって今や宣伝のおかげで残っている。要するに「売れば何でもあり」のおかげで、あえて奇抜なことができるのだ。

宣伝の先端性を象徴するもう一つの側面が、マルチメディアのより早い取入れである。宣伝と言えば先ずはキャッチコピー例えば「Discover Japan」とかだが、その早い時点から言葉に限らず映像やドラマ等と組み合わせてのいわば立体広告が芸術の本流に先駆けて実施され常識化された。「Discover Japan」だってコピー自体も時代背景に照らして秀逸ではあるものの、山口百恵の歌のおかげでヒットした側面が強い。

宣伝は1分以上だともう飽きられて逆効果だ。だから必然的に知能集約型になり、一発で印象に残るか否かの真っ向勝負になる。宣伝は多くの人には「休み時間」だが、宣伝に注目してテレビを見るとそれこそ1時間に10個以上の宣伝が流れ、しかもそれらがいちいち工夫されていて秀逸である。以前に天才として作詞家の阿久悠さんを挙げたが、彼の場合はまだ3分の20行くらいで訴えればよかった。もちろん小説に比べればずっと短い勝負だが、宣伝はさらにその数分の1でインパクトを残さなければ

瞑想録(その14)

ならない。これは過酷な勝負である。

最近「戦後の名コピー500選」と言う本を読んだが、半分くらいは聞き覚えがあった。いずれもコピーのみでベスト500になったというよりは、マルチメディアの総合力で今も記憶に残されているという感じである。分野としてはウイスキー(アルコール)が一番多く、それに化粧品、車、デパート(贈答品)が続くという感じだ。これらの分野はいずれも売りが味とか乗り心地とか抽象的で、多く売るには宣伝力がものを言ったということだろう。ならば保険などはもっと抽象的だと思うが、保険の宣伝は一般に文句が説明的に長い。

さてそんな宣伝の中で、私が個人的に特に印象に残っている宣伝が2本ある。いずれもサントリーのウイスキーに関するものだ。サントリーはかつて山口瞳等の有名宣伝マンが多く在籍し、会社もオーナー会社の利点を生かして長いこと宣伝を野放しにしてくれたおかげで、この分野の歴史に残る名CMを多く出している。

私が印象に残っている1番は1981年の「陽はまた昇る」、サントリーローヤルの宣伝である。そのコピーはちょっと長い代わりに、1分程度で十分に1つの物語になっている。以下に引用しよう。

日が暮れると物語の主人公たちが集まってきた。小説家、絵描き、ジャーナリスト、破産した男、離婚を待つ女。夜中に旅の宿で風の音を聞いた。日曜日の正午、祭りは爆発した。それは7日間グラスの海に注がれ、海は満ちることを知らなかった。

日が昇るとすべては終わっていた。男はグラスの中に自分だけの小説を書くことができた。サントリーローヤル。

ほぼこんな感じだ。TVの動画CMでカラー、舞台は闘牛などが出てくるのでスコットランドではなくスペインのようだ。ちなみにコピー制作は東条正義で作曲は小林亜星である。ヨーロッパの居酒屋風の雰囲気がこの上なく良く出ている。いわくありげな初対面たちが、酒で親密になれるのだ。

2番目は1974年の「鴈風呂」、サントリー角の宣伝でコピーも出演も開高健である。以下にコピーを紹介しよう。地方の、当時はあまり知られていなかった言い伝えに基づいている。

鴈が北から帰るときに、波間で休むために枝を一本くわえてくる。そして津軽の浜についたときにこれを落として南に行く。春になってがんは再び枝をくわえて北に帰っ

瞑想録(その14)

ていくが、不幸に冬を越せなかった鴈の数だけ浜辺に枝が残る。漁民はこの枝を集めて風呂を焚き、亡くなった鴈の供養をするという。悲しい話だね。

これもTVの動画CMでやはりカラー、撮影は津軽の外ヶ浜あたりか。開高健がこよなく愛した釣りの場面や枝を集めるシーンなどが出てくる。この言い伝えは開高が有名にしたようなもので、今では俳句の季語にもなっている。

もちろんこれ以外にも懐かしいCMはたくさんあるが、書ききれない。ちなみに娘に一番好きなCMを聞いてみたところ、5年前の東北地震の際に頻繁に流されたAC(公共広告機構)の「ゆかいな仲間がポポポポポーン」と言う作品だそう。理由はこれをもとに多くの笑えるパロディ動画が無名のユーザーによって作られてユーチューブやピクシブに山ほど載ったからだと言う。最近のCMの評価基準は、また一段とマルチメディア化しているようだ。

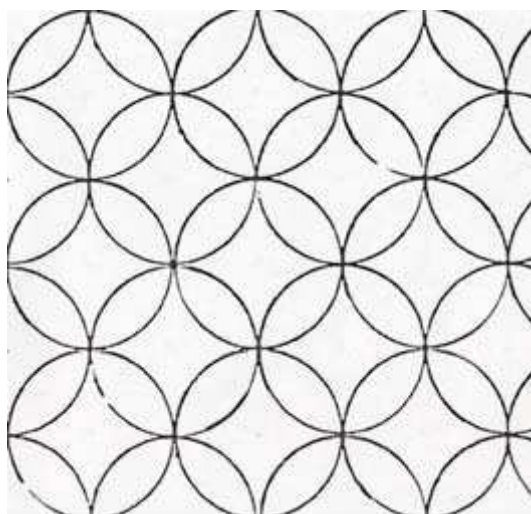
4、科学の限界

下の画像を見てください。吊るし雛の吊るし部品の一つで作者は「七宝紋のちりめん玉」と呼んでいます、一般には「布ボール」の1形状になります(画像は:<http://ameblo.jp/ishibashi2011/entry-11795438737.html> より)。

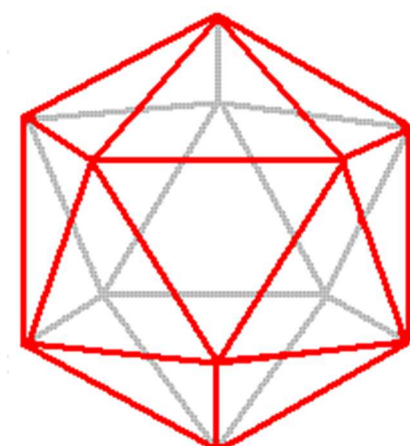


この図柄、確かに七宝紋(下図)を丸くしたものです。

瞑想録(その14)



でもこの文様、実は正20面体(下図)でもあるのです。



学校で習うのでご存知の方も多いと思いますが、1種類の面からなる正多面体は正四面体、正六面体(立方体)、正八面体、正十二面体、そして正二十面体の5種類しかないことが比較的容易に証明できます。証明できちゃうので数学あるいは科学としてはここで終了です。これ以上何も起きません。強いて言えば1種類から「2種類の面」に拡張すればさらに数十個できますが、やはり有限個であることが証明されています。そしてどれも見れば見覚えのあるような形ばかりです。これもこれで終了です。終了するから科学です。

似たような問題で、空間を同じ形で埋め尽くせる正多角形は三角形、四角形、そして六角形の3種類に限られることも容易に証明できます。これで終了です。もし平面(2

瞑想録(その14)

次元)を3次元以上(立体や超立体)にすると、埋めつくせるのはもう立方体(超立方体)しかありません。つまらない結果ですがこれも証明が済んでいるので、つまらなくて終わりです。面が三角形である正四面体や正八面体でも空間を埋められそうに見えますが、実際は隙間が空いてしまいます。

こういう観点から先の七宝の布ボールを見ましょう。この球は正多面体の「辺と面以外はあるていどではない」と言う思い込みを、「辺を曲面にちょっと拡張しても良いでしょう」と言ういわば「別次元の気づきと拡張」になっています。つまりどこにでも居るママが赤ん坊のおもちゃ用にちょっと作った図形が、実は専門に凝り固まった数学者や科学者にはおよそ考え及ばないような高度で異次元の発見になっています。

こういう柔軟な発想は科学教育では、実は無言に禁止されています。こういう拡張をすると発散して収まりがつかないからです。科学というのは発散を恐れるあまり、既存の発想の次元から飛び出る創造性を潰しあるいは無視します。つまり「これしかない」からこそ証明できるのであって、つまらないことと証明可能性は抱き合わせなのですが、これが科学と言うものです。

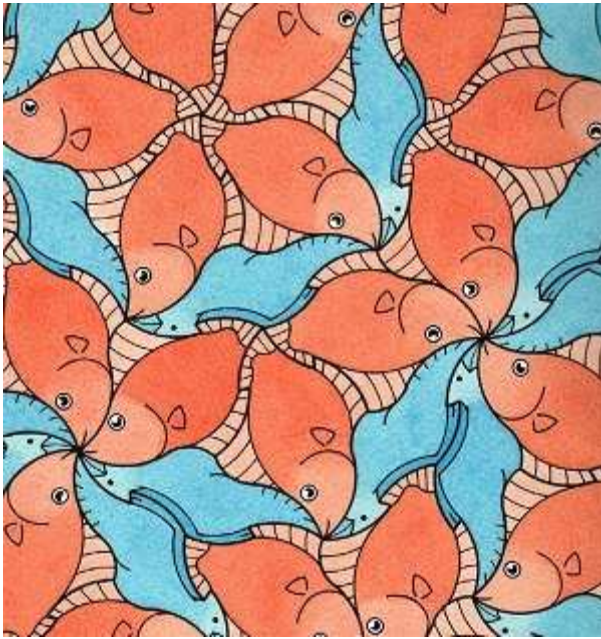
分かりやすく解説しますと、辺を曲面にした段階で曲面の形には無限の種類があるために発散してしまっていて、科学とか証明と言った手続きの対象を超えてしまうのです。ですから科学的手続きは発想の転換や異次元化をくじきますが、アートとは逆に無限に発散するからこそ面白い。アートは現に美しいことで納得できるので、証明なんか不要です。人は美しいとか面白い方が、集約なんか不能でもはるかに感動します。逆にアートの自由度が証明や集約できるほどに貧弱だったら、この世はさぞつまらないことでしょう。

ここに科学や証明手続きの、限界の典型を見ます。科学や証明手続きはきわめて有力な納得のさせ方ですが、しかし神羅万象で証明の対象となるものは圧倒的に少ない。我々は日々のほとんどを証明によってではなく、美しい、面白い、なるほどと言った蓋然的手続きで納得して捌いています。もちろん多少のリスク、競馬やパチンコや株のような面はありますが、証明を待っていたら飢え死にしてしまいます。証明が可能な事物は、森羅万象全体に比べれば測度零でしかも当たり前のことに限られます。

最近テッセレーションと言うアートが流行っています。もともとは計算機の解析メッシュ切りの技術手法として発生したのですが、今は「限りなく幾何学に近いがその外にあるアート」という位置づけです。その内容は「平面を2つ以上有限個の同じ形で完全に埋めよう」と言う文様構成法で、「ペンローズのタイル」(下図)はその古典的な例です。

瞑想録(その14)

この例では魚と鳥で平面が完全に埋まっています。



テッセレーションの場合、基本的な空間割は同じでも無数の形があり得ますし、その基本的な空間割も無限子に複雑なものがあり得るために、きわめて幾何的ですが幾何学ではありません。テッセレーションを見て考えることは脳トレにもってこいなのですが、もはや幾何ではありません。少なくとも悪質な発散を包含していて、科学にはなりえません。

つまり我々の前には2つの選択肢があることになります。1つは証明できる厳密な演算のみに自らを限定してあくまでも科学者でいるという選択肢です。もう一つは四則演算等の内向きの演算にこだわらずに、むしろ単純なものから複雑なものを導き出すという演算子に注目する選択肢です。そうすることにより、常に閉じるとは限らないという意味で蓋然的なその演算子でいろいろな面白い図形を考案することができます。

テッセレーションはアートになってから飛躍的に発展しました。多次元のテッセレーションとか、動くテッセレーションアニメ等がどんどん発表されて行って、今やアートの一分野をなすかの勢いです。もちろんこの種のアートがどれだけ複雑化しても現実の絵画には至らないので、現実のアートはさらに高いところにありますが。

20世紀を代表する大画家のサルバドール・ダリは、「自分の最も恐れるものが同時に自分の最も好きなものである」と言う妄想的な脅迫概念に引き裂かれそうになりな

瞑想録(その14)

がらも、その心象とエネルギーを絵にすることによって偉大な作品をたくさん残しました。その「自己分裂」を自覚している彼があるとき「核分裂」を知って、「物だって分裂するのか」と安心したそうです。

もちろんだりの核分裂理解は間違っていました。少なくとも専門の物理学者なら一笑に付すでしょう。でもその間違った理解のおかげでダリはさらに新たな境地を得ました。そしてその新境地で優れた絵画を制作していて現に人類に役立っているわけですから、ここは一概に「間違っている」と片づけるのはいかがなものでしょう。私が先日見た院展でも、月にウサギが居る絵が入選していました。

果たしてどっちが豊かな道でしょうね、厳密にこだわるのと異次元の飛躍の新発想を歓迎するのと。ちなみに私は学生時代に後者を選んで、学者の道を捨てました。

5、終わった人

先日以内館牧子の最新作の「終わった人」を読んだ。ちなみに私が内館の作品を読むのは初めてで、彼女については「朝青龍にチョメチョメしたギョロ目のおばさん」くらいのイメージしかない。

この本を手にとったのはとある県立施設の情報コーナーで、やはり最近発刊の砂川啓介著の「娘になった妻、(大山)のぶ代へ」のたまたま隣にあったからだ。ここでのぶ代とはドラえもんの声ののぶ代さんで、最近痴ほう症を患っている。この本が人気で横浜市の図書館では100人以上待ちで年内はあきらめていたところ、意外なところで見つけたのだ。そして内館の「終わった人」が隣に並んでいたのも、いわばついでに借りてきた。ちなみにこちらの本も帰宅後検索してみたら図書館で100人以上待ち、週刊エコノミストによるとフィクション部門売り上げ4位と、人気は高いようだ。

ネタバレになってしまうが、「終わった人」の主要登場人物を概観する。

- ・田代壮介(主人公): 東大法学部卒で都銀のエリートだったが役員競争に敗れて子会社に出向、出向先の平取で定年するところからこの話は始まる。
- ・妻千草: 旦那とは冷えた中で何も期待せず、自前の美容室開業以外頭がない。
- ・娘道子: 人生を知り切った冷徹な観察人で、父母への突っ込みが当たっていてきつい。
- ・トシ: 千草のいとこ、アートデザイナーで独身の女たらし。

続いて概略のストーリーです。壮介は役員になる自信があったし相応の成果もあげて

瞑想録(その14)

きたのだが、どう見ても自分より劣る奴に役員の席を取られて子会社に永久出向になり、不完全燃焼のまま不本意に定年した。それ以後「新聞を3回読んでもまだ10時」の時間を持て余すただのジジイに成り下がったが、ひよんなきっかけから社員40人のベンチャーIT企業の社長に就任する。だが武運拙く連鎖倒産の憂き目にあって、私財をなげうって後始末をし、半世紀前の同級生が待つ故郷へ一人帰っていく。

さてこの話、本の表紙も壮介が花束をもらって会社を去るところで哀れをそそる。私に言わせれば定年は奴隷解放のうれしい日、終わった人でなく「始まった人」なのだが、会社を見渡せばこういう人もあるいは居よう。壮介が一番間違っているのは成果と出世が比例するという思い込みだ。会社員で大切なのはある程度の成果と、あとは他人の仕事を増やさない如才のなさなのだ。そこがわからずに学歴に拘泥している、これは哀れである。

では内館はエリートを馬鹿にして自分が気持ちよくなりたくてこの小説を書いたのかというと、そうでもない。同情している部分もある。千草がダメな妻かと言うと単純にそうでもない。この辺の心の襞を内館は娘の道子によって語らせている。この心の襞こそ内館の得意分野でありしかも典型的な蓋然論理でもあるので、本日の記事に取り上げている。内館は結局何かの思想を主張したいのではなく、平成後期の典型的な人物像や世相を描きたかったのであろう。

私は平成後期の典型世相としては第1に、西村賢太の「苦役列車」を挙げる。この作品は芥川賞に輝いた彼の私小説であるが、犯罪者の息子で日雇いの港湾労働者という社会の底辺から構造的に抜け出せないやるせなさを描いている。事実上階層が固定されているのだ。だが彼の作品は昭和前期を代表する「蟹工船」と異なって、思想ではなくあくまでも散文である。だから文学で居られるのだ。

そして「終わった人」は境地こそ真逆だがやはり平成後期にありそうな典型的パターン、バブルが崩壊して日本経済が行き詰まり学卒過剰になった時代の典型的な社会のありようを描いている。田代の境遇は西村から見れば雲上人で「どこに文句があろうか」というほど光っているのだが、田代に満足はない。一億総不満足、これは自由主義の当然に至るところでもある。

似たような作家に山崎豊子がいる。彼女の代表作は「華麗なる一族」だ。財閥の虚栄とその社員のノルマの悲哀を対比した作品で、まあこの猛烈ノルマ社員の方は田代の先駆けと言えなくもない。山崎作品の時代背景は昭和末期の経済成長の真ただ中であって、山崎作品を総括すれば「昭和への挽歌」となろう。そして西村や内館の

瞑想録(その14)

作品は同じ意味で後世に、「平成の挽歌」に位置づけられると思われる。出世競争とか年金生活とか退職金とか、今の若い人たちにはもはや遠い世界である。

最後にこの本から人生の蓋然論理を拾っておこう。小説が読まれるためにはその推移について大方の理解を必要とするので、そこには蓋然論理で物語を滑らかにつないでいくという作業が必要になるのだ。

- ・道子曰く、「トシは別れるときはいつも『自分が振られる』という方向にもっていく、プレイボーイの面目躍如ね。」「もてる中高年には一定のオーラがあるのよ、家庭不和のオーラね。」
- ・壮介は一時カルチャースクールの受付嬢と懇意になる。そのときに、「いきなりプライバシーに立ち入ると警戒されるから、無難な話題から入ろう。」
- ・壮介がIT会社の負債の穴埋めに私財を供出したことに千草がカンカンになると道子が、「お母さんもお父さんの経歴にひかれて結婚したのだし今までさんざん食わせてもらっておいて、失敗するとその態度ってずるいよね。」
- ・壮介が故郷の同窓会で「高校で1, 2番を争った俺たちが今みじめで、勉強ができてなくて地元の駅弁大学に行ったAは今地域活性化NPOの理事長で、世の中ってこんなものかな。」
- ・壮介がIT会社を潰したのは、会社規模に不相应な大型物件の受注に成功したもののその相手会社が倒産したせいで、「焦らずに分相応って大事だよな。」
- ・壮介が会社を潰して、「1度やってみて俺も納得したよ、高い授業料だったけどな。」
- ・千草の最後の言葉、「もう一緒にいたくないしかと言って離婚も面倒だから、卒婚しましょう。」
- ・年末に壮介が昔の会社仲間に電話を入れて「忘年会でもやろうか」「良いですね」。良いですねと言いながらそれ以上の具体化がないのは、実はもう会う気がないと言うことなのだ。
- ・壮介が一度ひっかけた受付嬢はその後トシの彼女になっていてある日ばったり出会う。彼らの様子を見ていた道子が、「お父さんをその気にさせてうまい飯を食ったのはあの子でしょう、態度で分かるわ。」

6、ほどほどの生活

最近趣味で、アートギャラリー巡りを結構やっている。東京周辺でもギャラリーの数は優に500軒を超えるだろう。そのうちの結構な割合が、趣味の日曜画家集団用に貸しギャラリーを営業している。公募展もあれば団体展もあるのだが、結構小さなギャラ

瞑想録(その14)

リーでも週替わりで展示が入れ替わる。しかも1回の展示点数は数十から数百に及ぶこともある。

そして私は絵画や彫刻や写真はからきしダメなので余計にそう感じるのかもしれないが、それらのアートのほとんどが素人の作品とは思えないほどいちいち上手いのだ。何を描きたかったのかの作者の心象が、波動で伝わってくる。シュールな作品から写実的な作品まで、構図や配色等に気付きがあって、どれも心憎いのだ。

これらの膨大な絵、売れるものはほんの僅かだろうからあとはどうするのか聞いてみたが、どうも各自持ち帰りらしい。公募展によっては要領に、「展示終了翌日までに受け取りに来ない作品は事務局で廃棄します」と明記してあるものもある。日曜作家が力作を家に持ち帰って、置くところがなくなったらあるいは本人が他界したらほとんどが廃棄されるのだろう。

まあ私の人生観が「本人が楽しい一生が、仮に非生産的で垂れ流しでも最高だ」であるから、そういう意味で廃棄は別に構わない。ただ残念なのはこれだけ無限個の新発見された新たな世界が、早晩消滅してしまうことだ。結局科学でないので発見が多様過ぎて発散してしまい集約のしようがないということだろうが、何とも惜しい。

ところでこの芸術真っ盛りで感心するのは、日本で力作が毎年何十万点も生産されている現状に鑑みて、いったい日本のどこが不景気でブラックなのか、訳が分からなくなってくるのだ。ブログやツイッターだってウィットの効いた明るい日常の書き込みにあふれていて、愚痴などほとんど見ない。趣味全部に話を広げれば、発見や美はその数十倍にもなろう。

現にこれだけ多くの人が人生を楽しんでいて、かつそうする心と時間の余裕があるのに、他方で夫婦そろって40歳過ぎだけど派遣社員で年金などおよそおぼつかないとか、連日連夜の残業で擦り切れて鬱になって退職させられたとか、40歳でリストラされて再就職もままならないとか、日本は一体どうなっているのかと訳が分からなくなってしまう。

この問題について瞑想した末に、「日本人は大きく2分され、それは運による」と言う結論に達した。つまり、①運よくそれなりの会社の正社員になりかつ会社も運よくつぶれずそれなりに余裕のある日々を送れる人と、②運がなくて正社員になれずあるいはブラック企業に入ってしまうあるいは会社の経営者がダメで倒産してしまっただけで人生半ばで放り出されてしまった人々だ。そして運が悪い側に嵌った人々は生きるだけで手

瞑想録(その14)

いっぱい自己主張の余裕もないから、われわれの目に入ってこないのだ。

さてここで問題なのは、永遠派遣社員とかブラックだったとか会社が倒産しましたなどと言うのは多分に運であって、本人の努力や人格に問題があるというような自己責任に帰するような理由でないことだ。最近も東芝や三洋やシャープと言った一流企業のエリートたち、学校時代には秀才で成績優秀だった人々が、本人もそれなりの努力はしていただろうに、ある日突然自分の預かり知らない経営層のチョンボによって運のない側に放り出されてしまうことだ。

20年前に倒産した山一証券や北拓銀行社員のその後を記事等で追ってみると、一流大学卒の塊だったこれらの人々がほぼ全員悲惨だ。良くて小さな同業他社に再就職できて地方の支店長くらいにはなれました程度で、ほとんどが給料半分で派遣社員かもっと悪ければ肉体労働だったりしている。世の中には山一の面接で落ちて第二志望の地銀に入社したなどと言う人も居るだろうけど、この人は落ちて返ってラッキーだった。

もうこうなってくると労働人生50年の今後において、希望大学に入れたとか大手の会社に潜り込めたとか、ましてや高校まで成績は1番でしたなどと言うのは何の保証にもならない。元秀才だってリストラされればガーベジマンなのだ。何のための勉強だろう。

最近週刊東洋経済で、「こんな時代の理系社員の生き残る道」と言う記事を読んだ。そもそもこの記事が「リケジョブーム」などと言う嘘スローガンの実態を暴くものなのだが、生き残り方は①今の分野で日本の5本の指に入る、②技術動向に敏感になっていつでも分野を変えられるポテンシャルを持っておく、③技術だけでなく経営や経済にも強くなる、④分系理系を問わず人脈で誇れるようになる、これら全部をやれと言うことだった。

あるいは千人に数人くらいはこれだけのノルマをこなせる超優秀な人は居るかもしれない。だがもし居たとしてそこまで優秀な人が依然として一社員をやっていたとしたら、それこそ七不思議と言うものだ。そしてほとんどの社員は、「ほどほどの待遇と給料で良いからほどほどの努力で許してよ」と思っているだろう。そして今の日本にはこの「ほどほど」が見えない。

もっとも今まで自営業とかで生きてきた人は一歩間違えば破産のリスクを背負いながら生きてきたのだから、「会社員もリスクを背負うのは当たり前」と言えば確かにこちら

瞑想録(その14)

の方が平等だ。ただ自営業の人の多くは親の店を継いだケースが多い。その意味で自営業には昔は「ほどほど」があったのだ。ただ今はもう、写真屋も豆腐屋も時計屋も和菓子屋もそんな時代でない。「跡継ぎでほどほど」ですら限りなく無くなっている。

こんな時代だから「リストラ保険」でも売り出せば売れるだろうに、そういう商品は見ることがない。おそらく「寝たきり保険」と同じで、とても保証しきれないのだろう。つまり現状はそれほど重篤だということだ。資格を取るのも一法だが、資格の頂点を極める弁護士すら溢れていて仕事がなく、医者だってまとめてアジアに輸出される時代だ。

結局これからの時代に一生ものの仕事なんてないのだから、ほどほどの人生を送りたかったらむしろ好きなことをした人が勝ちではないか。もちろん山谷はあるだろうが、好きなことなら頑張れる。「人生をドブに捨てる代わりにほどほどの生活の保険を会社にもらう」などと言う選択をしても、単に人生をドブに捨てて棒に振るだけだ。

7、嘔吐

現代の数理科学と逆に無限連続体(形状やモチーフ)を基本素材とする「アナログ数」とその形成する空間について、本日は中間まとめをする。

まず基本単位のアナログ数であるが、「数」とついてはいるが数えてはいけない。仮にその連続体が複数のピースから成るにしても、1つ2つと数えた時点で形状等の具体的な中身は落ちて形式のみになっている。そういうもののとらえ方はすでにデジタルだ。

では数えずにどう認識するかと言うと、形を素直に見る。笠松と言う文様がある(下図)。松の枝ぶりが笠に似ているのでこう呼ぶ。文様が単純なので例にとっている。ちなみに文様では黒が、画材としては緑が多い。



瞑想録(その14)

もちろんこれは数ではなくあくまでもモチーフで見るので、相対的な縦横比とか3つの山の高さとか微妙な違い等は同一視して、1つの塊と言うかモチーフつまりアナログ集合として見る。自然の松をもとにこの図案化を思いつくのはそれなりに卓越した異次元の気づきなので、そのバリエーションも含んで1つのアナログ集合を形成すると言うことだ。要するに数は変わろうとも質は変わらないので、質優先のアナログ世界では同一なわけだ。

図案によっては笠松にさらに枝のついたものや、2, 3の笠松が並んだような応用的な図案もある。これを先の1つのもののバリエーションに含めるかあるいは異次元の気づきとみなして別の文様と位置付けるかは、人の場合によるだろう。異次元の気づきとするならば先の単純笠松の隣に接して新たなアナログ集合を認めることになる。ここでも「アナログ集合の個数」などはどうでも良い。

これを笠松4個5個等としても凡庸な気付きだから従来のアナログ集合の中にバリエーションとして置いておく。ところがこれがさらに発展して松の木ほどになると、これはもはや別の図案であり、別のアナログ集合となる。どのへんで別になるかはあいまいだが、いずれにしろ別である。「別になる時点」はテセウスの船のパラドックスであるが、これはデジタルなものの見方に固執することから発生する、人工的なパラドックスである。

さらに進んで松竹梅として竹や梅と組み合わせると、これもまた異次元の気づきなので隣に別のアナログ集合を形成する。吉祥つながりでさらに鶴亀等と組み合わせれば、再度また別の集合である。あるいは松尽くしと言うことで笠松と松葉を混ぜ散らすとこれまた従来にない新たな気づきなので、従来にはなかった方向に新たなアナログ集合が形成されるという具合で発展していく。

格子縞や立沸の上に笠松を重ねるという方法もある。このような時に枝の数や散らした松葉や笠松の数を数えても仕方ないだろう。大拙なのはあくまでも全体観でありモチーフである。そしてこのプロセスは人の脳の成長と相同であり、異次元の気づきを重ね合わせていく脳の基本的なメカニズムすなわち演算子である。

さて、梅の文様も同様に単体の図案化された梅から出発して複雑に成長させることができる。ここで笠松単体と梅単体はおおよそ類似性がないから離れているが、松竹梅と組み合わせたところで急に近親性が出てくる。こういうことは脳作用でよくあることだ。

瞑想録(その14)

似ているものや関連性のあるものは原則として近いのだが、形状やモチーフは多面的であり「見方によっては遠く別の見方では近い」と言う関係になる。

つまり脳空間における諸物の認識のありようについては、遠いものが近く、上の物が下で、厚いけれど薄く、しかもくっついて居る物が同時に離れている。距離感のようなものはあるものの、厳密な距離あるいは位相や連続性もないあるいは一意でないことになる。こういうものを位相空間どころか空間と呼べるかも、実は疑問である。少なくとも概念の拡張は必要である。

そもそも従来の位相や空間ではことさらに言わなくても自然に次元が入ってきてしまうところ、脳空間に次元はない。有限次元に収めきれないし、常に異次元の気づきが新たな発想や着眼を促す。優れた創作とは即ち次元を破ることなのだ。こういう空間を4次元時空内で表現するのは難しいが、さもナマコのようにヌメヌメフニャフニャして掴み所のないようなものである。なお今までの笠松等の文様の例では常に2次元画像であったが、より一般的には図案そのものだって非次元的な方が優れている。

ロバは引っ張ると逆に逆らって逃げようとするが、人のこのロバのような性質に注目する。人の心理にも多かれ少なかれ、「当てられるのを避ける」とか「法則化を嫌う」と言ったあまのじゃくな性格があり、この性格が脳空間の構造の解明を一層困難にしている。つまり脳空間において矛盾や逆理は排除するものでなく、当然に存在する重要な要因である。

以上に見てきたように、数えることに意味がなく、形やモチーフや全体観や異次元の気づきが大切で、およそ空間や常識には収まらないワープしたような形をしており、しかも法則化を図ろうとすると反って逃げようとする厄介な要因を抱えたもの、これが脳空間の実態でありアナログ集合の実態である。加えて人の感動は第一印象優先で、同じものを何度見ても理解は深まるものの感動は薄れるあるいは飽きてくるという傾向があり、一定しない。

これら人の心象の素の性格は一見面倒に見えるが、実は逆にデジタルな数や演算の世界が変に人の本性に不自然に単純化されているだけのことである。そしてこの幼稚な世界ですべてが理解できると信じているのが、現代病の科学信仰である。

私は現代の数理科学や科学全体、むしろ科学信仰全般に嘔吐を感じる。人々が事物の全存在に対して一面的な意味をつけたがる傾向に実存主義のサルトルが嘔吐したのと似た嘔吐を私が科学信仰に感じるのは、全く荒唐無稽でもないでしょう。数字へ

瞑想録(その14)

の縛りは低次元への拘束、つまり新しい地平への新鮮なジャンプと移行を禁止する、実に息苦しい暗黒世界だ。

8、動機の形成

先日も記したけれど、最近ライフワークに関連した趣味として美術館やギャラリー巡りをしている。売れるほどの絵でなくても皆さん上手くて、どういう景色や心象を描きたかったのかがいわば脳波のような波動としてビンビン伝わってくる。私とは別人が描いたものにもかかわらず、また絵画ごとにいちいち狙いが違うにもかかわらずだ。これはうれしい瞬間である。

そして私はしばしばさらに深く、どうしてこの人はこの絵を描くという決断に至ったのだろうかと思想してみる。景色の絵画ならおそらくちょっとしゃれた構図を発見して、場所を何力所か変えつつ自分の定点を定めた上でその景色の良いところが浮き立つような画法で描いたのだろう。また心象画ならその心象の内面を見つめてそれを具体化しつつ、徐々に形と色を配していったのであろう。

私は不器用で絵や彫刻はからきしダメだが、日々こうしてブログ記事を書いている。自分のまとめのために書いているので上手いとも面白いとも思えないが、それにしてもひとまとまりの文章にするにはそれなりの気づきと心象の変化や集約があるはずだ。そしてその心象の発展過程は法則に気付く過程も含めて、気づくという共通項がある以上類似であると思う。

と言うことで本日はこの一文を例に、どうやって書くに至る心象形成となったかをつぶさに見てみることにする。つまり「どういう経緯で動機に注視するに至ったか」をテーマに選んで、このテーマを思いつき分析するに至る心象過程を追ってみようというわけだ。幾分ループになっている気もするが。

まず核となる漠然とした心象が発生する。それはちょっとした気づきであるとかあるいはちょっとした心象上の不整合、いわば「そこが素直につながっていないから何か飛躍があるな」と言った感でもある。あるいは「これはちょっと面白い、常にあるわけではない」と言った意外性の印象であったりする。

こういった「小さな記事の元」は心の中に実は常に数十個あって、それらが意識下から意識上にいわば浮いたり沈んだりしていて、その浮き沈みの間により形が見えてきたり膨らんできたりする。あるいは他の小さな疑問や今までの常識との共通項が見え

瞑想録(その14)

て大きくなる場合もある。

こういった頭の中での無意識の試行錯誤が無意識に繰り返されているうちに、大抵の気づきはたいしたことがなくて忘れられるが、特定の気づきはある程度以上大きくなってメモするに至る。そして記録するに十分なほどのストーリーとインパクトを持つにいたった心象について、その心象を言語化する価値があると感じて言語化していくという過程をとる。

ここで大切なのは景色や心象を普段からたくさん見ている、いわば基礎となる常識的な心象を蓄えておくことである。多くの基礎がないと疑問も出てこない。またそうした過程を通じて、「できたらこういうものを書きたい」と言うビジョンが形成保存されることも。そうすることによって、種々の出来事に対する注視の仕方が違ってくる。

気づきを絵におけるモチーフの形成とすれば、言語化は絵画における描画技術に対比される。気づきが鋭くてもそれを表現する技術がないと、他人にも伝わりにくいし自分でも忘れてしまう。

さてこの描画あるいは言語化の段階で大切なのが、相手なり後の自分に脳波あるいは波動として伝わるように工夫と努力をすることだ。その意味において描画や記述は、「景色や心象に馬鹿正直であればあるほど良い」などと言うことはない。強調すべき点はデフォルメ的に強調し分かりやすいように構成も多少脚色しあえて比喩的に表現するなど、工夫の余地は大いにあるしそれが命中したときはうれしいものである。頭の切れの良し悪しや才能の有無は気づくという行為ももちろんだが、まさにこの工夫の点において現れると言ってよい。

それに負けず劣らず大切なことは、自分はいま新奇なものの創作活動を行っているのだという自覚と心構えである。こういう自覚があると水平展開などと言う物まねには唾棄して、「今までの既存の地平から立ち上がって新たな次元を切り開きたい」と言う真の創作心になる、「この面を強調するとより気持ちに通じる」と言う、創作の基本の肝の所をしっかりと掴むことができる。

以上がそろったところで素描、下書き、あらすじ等が順次浮かんでくるので、あとはそれを滑らかにつまり雑音なく見やすいように平滑化して良く練って修文するようにして出来上がりとなる。

瞑想録(その14)

こうして新たに登場した作品は、以後の創作行為においては既成のものとして扱われ、その心象もしっかり位置づけられて以後のマイルストーンになる。つまり次の作品においてはそれ以前の作品の教師及び反面教師の作用素として取り入れられるし働くことになる。一種の自律的な自主成長過程である。

9、科目の存在意義

高校までの科目は普通高校だったらほぼ全国一律で10科目ほどである。これらの存在意義、つまりこれらをネタに何を強化学習するのかを、心象をキーワードに考察してみた。

まず英語(外国語)、これはかなりはっきりしている。一応日本語で既に基礎的な意味理解はできている、つまり適切な心象分布とその言語表現ネットが成立しているその同じ上に、別種の言語表現ネット分布を多重に張る行為だ。心象分布自体は既成なのだが、その有限個近似である言語変換のネットについて、別種のものをもう1枚張るのである。

ここでネットの違いにより、心象の表現の難しいところがより深堀で表現できて痒い所に手が届くとかまた逆のこともあるが、おおざっぱに言って物の視点や近似点が増える。ただしその新しい言語分布の単語や慣用表現には蓋然的にも法則はないから、ここは地道に1つ1つ覚えるしかない。だから「苦勞の割に益が少ない」と感じる人も居る。

この「別の視点」は、心象の形式表現のみならずその個々の心象の深堀や事物の多面性の理解に役立つ。実際に英語が母国語の米国でも、多くの生徒が第2外国語の習得を要請される。多面的な視点の獲得訓練のためである。多くの生徒が選択するのはスペイン語(メキシコ語)である。

次に国語を見てみよう。「日本人に生まれたのは偶然なのになぜ日本語を強要されるのか」と言う生徒もいるが、ここはどの言語でも良いから1つの言語で脳内に十分な意味空間を形成しておかないと、心象発達や知育の健全な発達に障害となるのだ。良くバイリンガルに心のひだをうまく表現できない人が居るが、これはそもそも心象ネットが十分に張り巡らされていないからである。

国語でよくある問題に長文を読ませて、「それ」とは何を指しますかとか「この主人公が心残りを感じたのはなぜでしょう」と言ったことを問う問題がある。こういう問題も長

瞑想録(その14)

文のボリュームを見ただけで嫌になるものだが、ここで養うべきは素早い作品への心象移入である。つまり一時的に必要な程度にその作者になりきる練習であり、これは他者の行動予測に役に立つ。

もっとも作品の傾向が偏ったり教師が特殊な思想の持主であると、その特殊な思想を強制されたりその教師の理解の狭い枠にはめられたりとかして、嫌な思いをすることは否めない。

続いて、音楽や体育や工作と言った実技系の科目、これらの存在意義は先ず心象を具体的な形で表現するという心象変換の練習、次いで逆に体の感覚から新たな心象、特にコツとか勘と言った蓋然法則を脳空間に心象化する訓練である。これは現実社会では結構重要なのだが、科学でないので答えは1つでもなければ序列もつけられない、つまり成績がつけにくい面倒さはある。加えてこの手の訓練は日常生活でもあるいはサークル活動でも結構学ぶので、必要性を疑われることが無いわけでもない。

その次は理科、これは事実が空想に優先するという常識を身に着けるのが任務である。その意味では国語や音楽で習得することと一見バッティングする。だがこの両面性事態を身に着けるつまり、「合理思考も空想思考もどちらも意義があって大切なのは立場の明示と使い分けである」ことを習得するのが目的になる。理科についていえば、「空想は精神を豊かにするがそれで病気を治せるわけではない」と言う現実を学ぶ訳である。

さらに数学、算数の段階では「隣の町に電車に乗って買い物に行く」と言った日常事を単独で実行できる社会常識を身に付けるためにある。数学の段階になると、論理思考の習得とそれに沿った心象の操り方の訓練が目的である。良く「因数分解や方程式等は社会に出てもほとんど使わない」と言う文句を聞くと、そしてそれはそれでその通りなのだが、論理思考や合理精神や分析精神を養うためのこれ以上適切なツールが現状ない以上は仕方がないと言える。仮に将来出現すれば、取って代わられるかもしれない。

最後に地歴、これは小学校では「郷土の文化」から習い始めるが特に転勤族の子弟など、「特に今住んでいる場所にゆかりもないのに何で細かく知る必要があるの」と感じる。だがここはあくまでも調査手法の習得が目的であって、個々具体的な地域の特性は二の次である。

高校生になると世界の地理や歴史を習うことになる。これは基本的に暗記科目である

瞑想録(その14)

から暗記の練習とみることできるが、単なる暗記の練習なら英語でもやっている。にもかかわらず地歴を習う必要性は、形成された心象の体系化作業に適切だからだ。個々の心象はバラバラにあるようで実は縦系に密に関連している、地歴はその関連を伴って心象を適正配置する練習に適切である。

例えば「なぜ南アフリカは金の産地なのか」と言う問いに、プレート理論等に基づく地歴額を極めればあるいは理由があるかもしれないが、常識的にはそんな回りくどい理屈をこねているよりも暗記してしまった方がよほど現実的である。こういう心象の現実的連関性も併せて学ぶことになる。

こうして学ぶことは多くかついちいち意味があるが、時代が変われば学ぶ内容も変わってくる。例えば現代では変体仮名は学ばないし漢字の留めや撥ね等もうるさく言わない。それよりもMSエクセルを使える方がよほど重要だからだ。他方でラテン語はもはや教養必修でない。

今の教育に欠けているものをあえて挙げればそれは人格教育であろう。ただどの教科書を使って何を教えるのか、またその代わりに何を教えることを省くのかと言った、難しい問題はある。

10、脳空間の伸縮自在

先日に英語(外国語)の習得過程で見たように、心象空間には「知識のネット全体」と言うマクロの観点がどうしても必要だ。単に連想のみならネットワークモデルやこれを拡張してネットがノッドに交替する拡張ネットワークモデルやタグモデルでもミクロ的な理解で十分だが、アナログ的観点では全体観が第一義的であることも併せて想起すれば、体系のマクロな描像は不可欠になる。

ここでマクロな空間とはこれまで「非次元のアナログ空間」と呼んできたものであるが、空間と言うものの現行のトポロジーの空間のようなマッシブな空間では必ずしもない。従って空間の定義に、何らかの拡張と意識改革が必要だ。典型例として縁あって何らかの分野を細かく学び、その分野について相当の系統的知見を新たに得たとしよう。

こういうことは新入社員ではよくあることだし、私も先日偶然からマルタ共和国の観光事務所でマルタについて系統的知識を得た。この時私の脳空間でマルタに関する部分が単に細分化されただけでなく、この部分がグリーンと膨らんだとの感触を得た。実

瞑想録(その14)

際に膨らんだのだ。だが例えば3次元空間内で風船が膨らむときは周りの空気を押し
のけて膨らむのだが、脳空間の知識の場合は膨らんでもその周囲を押しのか
遠ざけるという感触は全くない。あたかも順番待ちを割り込まれても順遅れになら
ないかのようだ。

周りを押しのかないでも膨らむ、これは従来の有次元線形空間の感覚では考えられ
ないことである。箱となる3次元空間自体は固定されておりお釈迦さまも言ったように
同じ場所は1つの物しか占められない、これは空間の鉄則だからだ。

そもそも有次元空間になぜこのような排他性があるのか考えてみる。もちろん有次元
空間自体はデジタル集合だから無限個の点からできている。その基礎となる座標軸
つまり数直線だって点の列だ。そして実は単なる数字の列ならあるいは排他性は起
らないが、これが座標軸として組み合って掛け算が入ると0と1と言う2つの数字が特
別の地位を占めて効用を発揮する。

0は何を掛けても0で、「 $A \cdot B = 0$ 」ならばAかBのどちらかは0である。また1は、何に
1を掛けても変わらない。これら2つのマジック数のおかげで、有次元空間は単なるデ
ジタル集合でない壮大な構造を持つに至るのだ。実際にこれらの縛りを抜けば虚数
が2個の3元数だって作れる、つまらない構造ではあるが。

だから頭の中で脳空間とその構造及び成長を想起するとき、厚さや幅とともにこの0
と1の存在も忘れないといけない。我々は3次元空間から逃れられないので、この想
起は容易ではないが。加えて点集合でないからトポロジーのようにくっついているか
離れているかの2分法でなく、遠いか近いかを含む質的相違で事物の本質を見分け
る必要がある。端的に言えば「デジタルは量でアナログは質」なのだ。

そして脳空間の構造とその働きとは、それらの質の複雑分布の中から一定の蓋然法
則を見出すことにある。ここで蓋然法則を見出すなどと言うと難しく感じるかもしれ
ないが、例えば「こういうことを指摘したらあいつは怒るだろうなあ」と心象移入により
我々は日々予想する。こういう行為は我々が日々何回も行っている言わばありふれ
た行為だが、ここで予想できるのはその前提として蓋然法則があるからだ。

思うに人は日々のちょっとした環境の作用をきっかけに、無意識に多くのことを感じ
た多くの気づきをしている。これらの無数の小さな気づきについて我々の心の中での
事前の整理と準備があるからこそ、我々は新事態に手際よく間をおかずに対処でき
るのである。そして「世の中に全くの同一はない」という立場に立てば、すべての生起

瞑想録(その14)

する事象が多かれ少なかれ新事態なのだ。

そしてこれらの意識下の心象にもならないような無数の小さな気づき、その多くを我々は程なく忘れていたのだが、重要なものについては覚えていてかつ似たことが3回も繰り返すと意識下で蓋然法則にしている。この忘れるという行為の頻度の多さは、寝ている間に見た夢を起きてすぐならともかく少し経つと忘れてしまうという現象にも表れている。

そしてそこで決定的に大切なのは全体観と法則化だ。だがもっと目覚ましいのは同じシナプスを連想によりつなぎ方を変えて多重に使うそのたまたま同じシナプスを用いたことによる、無関係な連想間のジャンプする理屈のつかない連想である。これらが優れている人は頭が切れて良い気付きをする。入試でも就活でもこの意味での頭の柔軟さを直接計測できるツールがあれば、これは使える。

繰り返すけれども、「膨れるが周りを圧迫しない」、これがアナログ脳空間の一番大きな特徴である。この様態をもっとつぶさに表現できれば、あるいは脳研究も飛躍的に発展することであろう。このツールを使って脳内の蓋然法則を整理するとか生成することすら可能で、ここまで行くともうアナログプログラミングだ。この圧迫しない性格により、俗に言う「脳は使えば使うほど増えて決して限界もなければ減りもしない」が肯定できる。高度な宗教の「与えれば増える」もここにあり、下界の論理はともかく天上界あるいは幽体の演算はこの「与えれば増える」の反映があるはずだ。

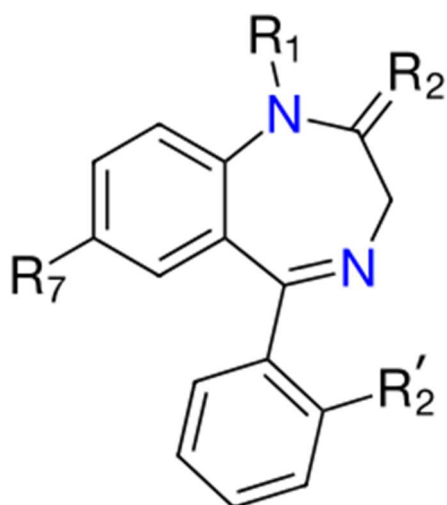
11、眠れる話

眠れる話

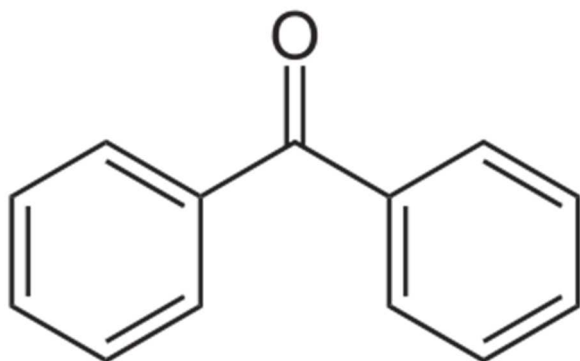
今日は睡眠薬の話です。睡眠薬というと眉をしかめる人も居るかもしれませんが、今や「睡眠も金で買う時代」で、睡眠関連グッズは結構な売り上げになっています。例えばα波の音楽とかマッサージ器とか芳香入浴剤とかです。ただこれらは副作用をない代わりに効果には個人差があり、全く効かない人もます。

これらのソフトな睡眠器ではどうしても効かない人は、薬も仕方ありません。薬というと副作用とか胎児への影響とか自殺とかを連想しやすいのですが、今の薬はかなり改善されています。現状の睡眠薬の中心は「ベンゾジアゼピン系」と呼ばれ、一般的には下記の構造式で書けます。これは壊れにくく水に溶けにくくかつ大きすぎないので細胞まで到達しやすい構造です。

瞑想録(その14)



現状薬は、一から有機合成するには複雑すぎる物質も多く、抗生物質のように生物特に微生物の生体反応で合成してもらうものも多いのですが、ベンゾジアゼピンは有機合成できます。チッソが2個あるので「ジアゾ」で、チッソは電子押し出し作用があるためにこれらが程よくRの部分を出してくれて効くわけですが、この大元の骨格はむしろベンゼン2個の炭素骨格のベンゾフェノンです。

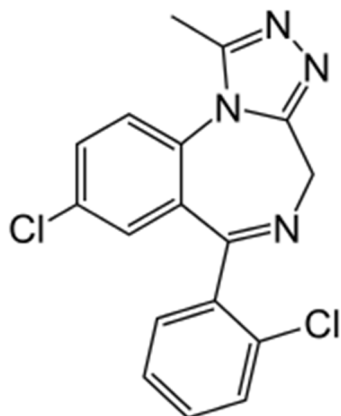


このベンゾフェノンはきわめて形式的に言えば、石油から取れるベンゼン(亀の子1つ)に安息香酸(カルボキシルベンゼン、亀の子の外に炭素がもう一つ)を、フリーデル・クラフツ反応で組み込むことによって作ります。試験管内での炭素骨格の結合は容易でないので、特別な反応方法を使うわけですが、あとはベンゾフェノンの骨格にチッソ(アゾ)を付加していきます。

代表的な睡眠薬であるトリアゾラム(商品名ハルシオン)は下記の構造式をしています。Rが塩素で、ジアゾのところにもう1つチッソがついているので「トリアゾ」です。薬

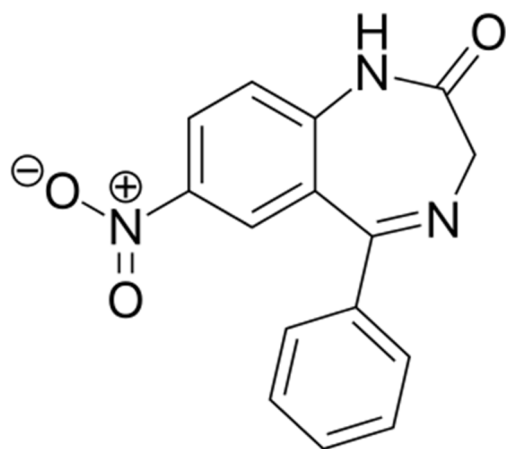
瞑想録(その14)

学屋というよりは化学屋側の私には、アゾが3つも近接していて爆発しないかのほうが気になりますが。



この薬は塩素イオンが外れやすい構造になっているのが薬効部分で、脳内で塩素が離脱してGABA(γ アミノ酸受容体)に結合して、その結果GABAの脳内作用を抑えることにより睡眠効果を発揮するという作用機序になっています。塩素が外れやすいため効果は短時間型に分類されます。特に遺伝子に直接作用するわけではありません。

一番おなじみな睡眠薬がニトラゼパム(商品名ベンザリン)です。やはりベンゾジアゾピン系の構造をしています、外れるRが塩素そのものでない分だけ薬効が遅く、言い換えれば長持ちしてちょうど一晩眠れるわけです。作用機序はやはりGABA受容体です。中時間型に分類されます。



瞑想録(その14)

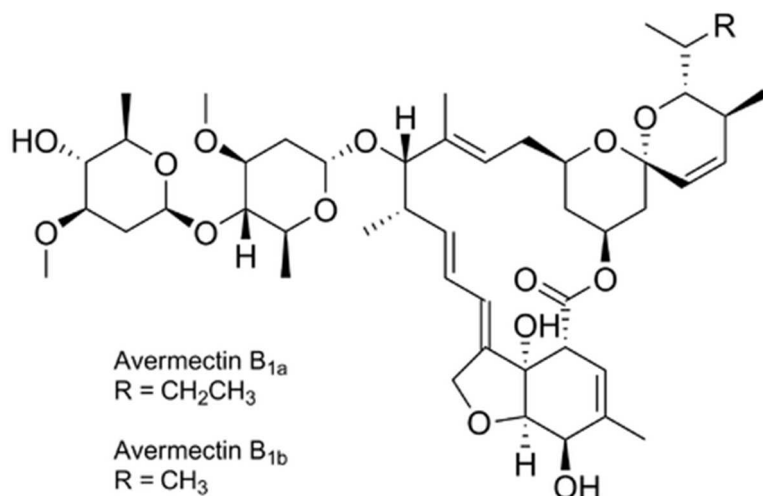
ほかにも現実的には、レンドルミンとかマイスリーとか、何十もの睡眠薬が処方薬として出回っていますが、そのほとんどがベンゾジアゾピンの骨格が分かればその変形あるいは誘導物として理解できます。

薬が効くためには①胃で分解されない、②細胞膜を透過できるように大きすぎない、③血液に溶解でき患部まで到達できる、④患部で望ましい働きをする、⑤重篤な副作用がない、⑥経済的にかつ恒常的に供給できる等、要件が非常に多いために、薬になりやすい構造にはどうしても一定のタイプに「偏る」傾向があります。

必ずしも一から化学合成できないのに加えて、作用機序もむしろ分かっていないものが多く、「臨床試験の結果効くという統計が出たから」という理由で認可され処方されている薬が多いです。理由はともあれ効けばよいという、現実的対応です。加えて「構造式を見れば効き方が分かる」という調子良いこともそうそうありません。

創薬はある程度勘で本命を狙って攻めますが、本命に薬効がなくてその前駆体のほうに薬効があったとか、サリドマイドのように睡眠薬としては副作用のために使用禁止になったけれども、一定の骨髄がんには薬効があることがその後に見いだされて再認可されるようなケースもあります。要するに人体が一筋縄ではいかないわけです。

薬物の発見もそのきっかけは多分に、偶然や古来の習慣だったりします。キニーネがマラリア原虫に効くことの発見も元は土人の古来の習慣で、作用機序がある程度解明されたのは最近のことです。キニーネはその後有機合成できるようになりましたが、昨年度のノーベル医学生理学賞を受賞した微生物学者の大村智先生が見出した抗寄生虫薬イベルメクチン、こんなものをどうやって一から化学合成できるのか、どこから手を付けたら良いのかおよそ見当もつきません。



これだけ科学技術が進んでも水がめだけは天の助けに頼らざるを得ないがごとくに、創業の世界も一筋縄ではいかないのです。なお多くの部分でウィキペディアのお世話になりました。

12、身丈に合った

「身丈に合った生活」、私が今一番好きな言葉だ。座右の銘と言っても良い。今までにいろいろな言葉や教訓を聞いたが、これは私にとっては魔法の言葉だ。

自由主義社会は基本的に、資金さえあれば何でもできる。高名な評論家の武村健一さんは、「自分磨きには世界の果てを巡りなさい」と勧めている。この言葉を聞いたのは数年前だが、その時も彼は南アメリカ最南端のフエゴ諸島を訪れて多くの気づきがあったという。つまり「金があるならそれを自己投資に使いなさい」という訳だ。これは良い教えだと思う。

私自身も求道心や好奇心は強いほうだから自己資金はパチンコや競馬よりも、できるだけ自己実現に使いたい。そして世の中はたとえ良いことをするにしてもただ同然なのは義務教育くらいで、それ以外は結構の資金がかかる。どんな分野であれトップランナーであろうとすれば仮にどんなに才能があろうとも、良いチャンスをもたらすための付き合いや資金獲得等が必要になる。

だが私の場合はここで、「身丈に合った」という言葉が作動する。別にわざわざ地球の果てまで行かなくても、身近なところに結構類似のチャンスはあるものだ。そして金に任せるよりもしばしば身近なところで日帰りの施設や立地を知恵で探すことによって、返ってその「代替地」への訪問が立体的に有意義になる。

私にこの言葉を教えてくれたのは、会社のたまたま世代が近い同僚だ。「会社を卒業した後はやりたいことが沢山あって資金のほうに合うか」などと心配を吐露すると彼は、「うらやましいですね色々やりたいことがあって、自分はやることがないので次の会社でも探しますよ。要は身丈に合った生き方ですね」と言う。彼は何気なく言ったのだろうが、私にとってそれは「贈る言葉」だった。

私のブログに目を通してみればわかるように、私は日帰りでしか出かけないし出かけるところもできるだけ公共の美術館や図書館等だし、昼飯もロマンのある食堂を選ん

瞑想録(その14)

ではいるが品自体はありふれたものである。人から見れば質素すぎてつまらないほどだろう。

人にはどんな才能があるか分からないから、もしかして高級レストランに行けばグルメに開眼してその分野で活躍できるかもしれない。そういう考え方をすれば私は質素のあまりチャンスを潰している、単なるケチということになる。とても偉いことなど言えない。ただ私は、①今の自分に満足していて、②自分の主義を家族には一切押し付けていない。私の勝手に実践しているだけだ。だから他人にはなおのこと、私の主義を押し付けない。

世の中には多くの名言や教訓があるが、そのどれについてもその言葉が絶対真であるなどという証明は存在しない。あくまでも蓋然真理であって、結局は各人が自己責任で選択するものだ。私は人一倍強制されるのが嫌いな人間なので、どんなに勧められても嫌いな教訓は受け付けない。

「置かれた場所で咲きなさい」という言葉がある。二二六事件で暗殺された渡辺教育総監の娘でノートルダム清心学園理事長の、渡辺和子さんが大好きな言葉だ。いかにもシスターらしい言葉である。「置かれる場所は神に任せよ」という訳だ。私はこの言葉を評価しつつも、守っていないし守る気も全くない。過去を振り返っても、私が置かれた場所は伏魔殿だらけだった。

「足ることを知る」という言葉に従ってむやみに場所を変えたりはしないが、脳波を天の運行に任せていると人生に数回くらいだが場所を変えるべきタイミングと次の場所が天から下ってくる。そしてその通りにしてきて今の満足がある。同じ意味で「身丈に合った」に違和感を覚える人は、身丈を超えても自分に合った人生にチャレンジしていくのが吉なのだ。蓋然真理とはそういうものである。

幸いなことに私は無名人である。従って芸能人や有名人のようにノブレス・オブリージュを不本意ながら実践する必要はない。次長課長の河本や前都知事の舛添は、自分の親せきを生活保護という税金で養ったと非難されている。この非難は行き過ぎると戦前の家制度の復活になってしまうので私は反対だが、私自身は無名人なので他人の模範になる必要はないし格好など気にしない。ブログに大抵のことを書いても、無視されるだけで炎上しない。これは捨てがたい自由だ。

歌手の克美しげるは自分のスターの地位を守るために愛人殺しまでしてしまったが、私の答えは簡単だ。スターの地位を捨てて一般人に戻って、つつましく暮らせば

瞑想録(その14)

良いだけのことだったのだ。それ以上何も取られない。「スターなどというものが身丈に合わない幻だった」と気づけば良いだけなのだ。

何年か前にスマップの草薙が、裸で夜の公園で騒いで警察沙汰になったことがあった。彼ほどのスターでも我慢できないことがあるのだ。だったら我々庶民にも我慢したくないことは山ほどあるだろう。そしてここで事態にもよるが、無理して我慢しないことも「身丈に合った」だと思っている。無理して善行などする必要はないし、庶民が裸で騒いでもニュースにもならない。「身丈に合った」、この言葉が私に最高の自由をくれている。

13、笑いの構造(その2)

笑いにも典型的に心象が現れます。その主なものは①ひねりの面白さ、②落差の面白さ、③優位に立つ愉快さ等があります。パロディあるいはブラックユーモアと呼ばれるジャンルもあります。いわゆる下ネタも、下品ですがしばしば一種の笑いです。

＜笑い1＞ピザ屋の店員が「常連の人から最近注文がない、おかしい」と気づいたきっかけで、自宅で倒れていた人を救出できたそうだ。「それは美談だね、好感が持てる」「いや、単にピザの食べすぎだろう」

＜解明1＞善行どころか実は墓穴を掘っていた。一種のブーメラン効果、自分に当たってガックリ。たしかにデリバリ物には不健康なものが多いし、偏食はいけません。「善行」がきっかけにむしろ、全国で不買運動が起きるかもしれません。もしこれが「親切をしてはいけない」と言う生きた教訓だとしたら、それこそブラックユーモアですね。

＜笑い2＞大山ノブ代さんが将来夫になる砂川啓介さんを初めて見た時、「おかまの出前持ちがラーメンどんぶりを下げに来た」のかと思ったそうだ。(MSワードのエラーを避けるためにのぶ代さんの名前をカタカナにしてあります)

＜解明2＞確かにこのころ、のぶ代さんは売れっ子で砂川さんの方は教育テレビの子供番組のみの駆け出しと格が違ったが、砂川がおかまでしかもラーメン屋の出前持ち、これは彼のイメージそのものです。のぶ代さん鋭い。

＜笑い3＞前都知事の舩添さんは、「湯河原が本宅で世田谷の方が別荘」と言えば良いだけだった。

＜解明3＞せこい私物化で首になった舩添さん、いまだに「自分は悪くなくて陥れられたただけだ」と思っているそうだ。そのせこい私物化の1つの「公用車による毎週末の湯河原別荘通い」、ちょっと機転を利かせれば通り過ぎられたのですね。頭の良さが自

瞑想録(その14)

慢の舛添さんにしては、痛い黒星でした。

<笑い4> 先日のイギリスの EU 離脱に伴う株相場の暴落で大金をすった人が、「お星さまが見える、お花畑がきれいだ」。

<解明4> あまりの大金ロス(数百万円、いや1千万円以上か)に怒りを通り越して、どうも悟りを開いてしまったようです。これはかなり重症で、元に戻るかわかりません。ちなみにこのつぶやきは、ツイッターで本当に見かけたものです。

<笑い5> ある若者が女性に一目ぼれした。その若者はラブレターを書いた。決して文章がうまいわけではないが、必死で書いて出した。数日後に彼女から返事が返ってきた。喜んで開けてみると、ラブレターの漢字の間違いや文法上の誤りが赤ペンで直されて、落第点がつけられていた。

<解明5> どうも御縁がなかったようで。

<笑い6> 私が通勤電車に乗っていると、「嫌らしいことは辞めてください、これ以上近寄ると警察を呼びますよ」と言う女性の大きな声が聞こえた。痴漢かよと思って振り返ると男の方が、「おいお前、もう許してくれよ」などと懇願している。どうも夫婦げんかの続きを電車の中でやっているらしい。

<解明6> 犬も食わないですね。

<笑い7> 「あの、なんという題名だったかな、世界が核戦争で滅びた後で若い娘がリーダーになって生き残りの人々が生存を模索するジブリの作品？」「おのろけ姫でしょう」

<解明7> おばさんにおのろけをされてもねえ。

<笑い8> 笑点の黄色で痴ほうがキャラの林家木久蔵が芸名を息子に譲って自分の新しい名前を公募したときの応募に、「林家木久蔵B面」。

<解明8> 昔のSP版のレコードの単なるおまけで穴埋めの、つまらない曲みたいですね。

<笑い9> 私は2度と賭け事は致しません、誓います、賭けても良いです。

<解明9> 結局賭けているではないか。ちなみにこのセリフ、蛭子能収(えびすよしかず)さんが本当に言った言葉で、彼はいまだにボートレースを辞めていません。

<笑い10> 「アニマルズってどんな歌を歌っていたか覚えている？」「あの連中なら何も歌っていないよ、単に吠えているだけだ。」

瞑想録(その14)

<解明10>若くてアニマルズを知らない人は、ユーチューブで一度聞いてみてください。

<笑い11>「お金をドブに捨てたい人はこのホテルに泊まりなさい」「あの病院は死にたい人が行く所だ」

<解明11>そんな人が居るわけじゃないですよ。最近流行りの口コミサイトには、この手のコメが満載です。

<笑い12>選挙の「うれうる野党」と言うスローガンを、ある知り合いが真面目に「うらぶれ野党」と読んでいた。

<解明12>そういえばかつて、「立ち枯れ日本」と言う老人だけの党もありましたね（本当は「立ち上がれ日本」）。

笑えるという感情は基本的にやはり一種のひねりであって、それをとっさに思いつくのは気づきと機転が必要です。そしてその気づきたるや、もし有用な成果品を生むならばノーベル賞級です。だれもが小さな湯川秀樹です。せつかくの優秀な才能は、場を和ますために使いましょうね。

14、絵画より優れたもの

今までにアートや学術等の様々なメディアの長所・短所を概観してきたけれども、最近どうも絵画が総合的に一番優れているのではないかという気がしてきた。

以前は「絵画は2次元に落とすための技術ばかりが先行してアートそのものに行き着くのに手間がかかりすぎではないか」と考えて、その逆の極端に言えば「置いただけ」で最近流行りの「インスタレーション系」に注目してきた。だがインスタレーション系は場所を取り倉庫や図面にしまった後の再現に手間取り、そして何よりも重力や構造力学と言った冷徹な下界の物理学に逆らってまでファンシーなものを作ることができない。

同じ意味で3次元の彫刻も、素直に彫れば良いだけではあるもののやはり物理法則に支配される限界がある。具体的には底が尖って上に開いた花器とか片足が取れた土偶とかそういったアートは、少なくともピアノ線で釣るといった補強をしないと存在しえない。

その点2次元の絵画は平面に収めるべしという束縛はあるものの、つまり四方八方

瞑想録(その14)

から視点を変えて見るということとはできないものの、物理的あるいは構造的に不可能なファンタジーや人のポーズや抽象表現をほぼ思いつくままに自由に作れる。無重力下での不安感とかかぐや姫が月に帰るところとか絵画だから描ける世界はきわめて多く、かつその「絵画でないと描けない」ところがアートである。

写真も「そのもの」を瞬発的かつ正確に撮れる利点はあるものの、自由度としては画面の切り取り方とピントの合わせ方と露出時間とフィルター等であっていずれも高度に技術的である上に、この世に存在しないファンタジーの撮影は不可能である。

その意味で絵画は写真を限りなく忠実に再現できるし、インスタレーションだってそれを図案化してしまえば固定できるし保存に場所を取らない。以前にアーティストがオブジェを作っている現場を見たが、鉄を叩いて曲げたり溶接したりファイバーを張り巡らしたり等々、ほとんど町工場並みの物と取っ組み合いの泥臭い大作業であった。

例で話そう。先日下記絵画を見た。星野歩さんという30歳そこそこの新進芸術家の作った絵画で、画廊の許可を得て撮影したものである。



瞑想録(その14)

絵をよく見てもらえばわかるが、日用品や街並み等がそれこそ原寸も用途も全く無視して画面いっぱいに展開されている。ある意味雑然とした配列法であるがそれにもかかわらず妙な統一感があって、作者の描きたかった世界が見る者にも伝わってくる。当日私は画廊でキュレーターと、「これは無重力の世界の写実化ですね」などと意気投合した。

しかし家に帰ってふと思い出し瞑想したときに、「これは無重力でなくむしろ多次元重力の世界ではないか」と閃いた。我々の世界では重力は万有引力と決まっているので、宇宙の果てに行ってもこれ以外の重力形態はない。いわばワンパターンだ。だがビッグバン直後のクオークの分布によっては別の空間と別の物理の宇宙ができていても良いのであり、この絵は空想上の絵空事というよりも別の実宇宙における重力のありようを物理に代わって表現したものではないかと思えたのだ。合わせて寸法無視は非次元空間を予想させる。

この例でみるようにアートを絵空事と鼻で笑うのはたやすいものの、アートの方が別の世界のお堅い物理や我々が永遠に見ることのできない別宇宙を分かりやすく見せてくれている可能性もあるのだ。あるいはこの絵で象徴される世界が、下界の物理とは異なる脳空間や幽界の作動原理なのかもしれない。そしてこの手のスーパーな表現力は、下界の物理に最も縛られにくい絵画が最高ではないか。

絵画を小説等の言葉による芸術と比べると、もちろん絵画のほうが言葉にできない世界を表現しているという意味で、圧倒的に勝っている。ただ小説等に多用される時間的推移や論理展開という面では絵画は弱い。とすると最高に自由度の高いアート技術は昔なら絵巻物で、今ならアニメということになるだろうか。まあアニメも展開された絵画である。

ところでアニメが最高ならゲームも最高だろうか。RPGなどかなりの自由度がある。しかし事前にプログラムされた範囲での話であり、その意味では明白な限界がある。つまり完全にアナログとは言いにくく、デジタルな面が残っている。それでは言語はデジタル化アナログか。有限という意味ではデジタルだが、その有限を組み合わせた小説になるともはやむしろアナログというべきだろう。

プログラム言語はどうか。これも決まった有限個の命令の集まりであるからデジタルだろう。もちろん現実世界を意識しているので純粋数学ほどデジタルでない代わりに純粋数学ほど深い理論はない。言葉を組み合わせた小説は芸術であるが、プログラ

瞑想録(その14)

ム言語を組み合わせたプログラム、これはアートではなくアルゴリズムである。それ自体が目的ではないからだし、自由度も限られているからだ。MSワードもウインドウズも、ツールである限りアルゴリズムであってアートではない。

ではRPGゲームはどうか。決められた手の内にしか自由度がないうちは、たとえ面白くてもアートとは言わないだろう。要約すると「似ている」とか「水平展開」と言った会社なら真っ先に推奨されるこうした手法は、芸術家にとっては最も屈辱的な評価である。つまり会社はそれほどつまらない。

15、推論クイズ

世の中には推論クイズという一定の分野がある。クイズであって教科ではないので学校では習わないが、気づきと論理脳を要する点では学科よりはるかに人生の訓練になる。どうしてこちらの脳トレを教授しないのか、不思議なほどだ。入試や入社試験だって、こちらの方がよほど地アタマの計測になるだろう。

以下に推論クイズの例を簡単な順に挙げる。

<問1> 1, 2, 4, 6, 8のどれかの数字が書かれた紙をP、Q、Rの3人に渡す。①Qの数字はPとRの平均である、②RはPの倍である。このときQはいくつか。

<問2> ① $5=5$ 、② $5<3$ 、③ $1>3$ である。このときに1と5はどういう関係か。

<問3> 円卓に5席あり、アキ、サキ、マキ、ミキ、ユキの5人が座っている。①アキの左隣はマキだ、②マキとサキは隣り合っていない、③ミキの右隣はサキである。このときユキの右隣はだれか。

<問4> 24チームが勝ち抜き戦で優勝を競う。何試合必要か。ただし引き分けはないものとする。

<問5> 正方形5個からなる展開図は全部で何種類あるか。裏返しで合わさるものは1種と数える。

<問6> 13本のマッチがある。1本だけ重さが違うが、重いか軽いのかもわからない。この1本を天秤の3回の使用で見出す方法を述べよ。

これらの問題は見てわかるように気づきと論理思考の両方が重要で、答えは一意に

瞑想録(その14)

定まり、しかも虚数や微積分よりはるかに日常に根付いていて、よほど使える。またMBA(ビジネス修士コース)で常用されるケーススタディも、微積分や力学のような理論というよりは日常の様々なケースの検討である。だったら学校でもこちらを教えて脳を鍛える方が、よほど現実的ではないだろうか。

就活に用いられる能力測定のSPIには、多くはないがこの手の論理問題が含まれている。また知能テストもこの手の推論問題がさらに多い。一般には公開されていないが、高知能集団のメンサの入団試験もこのような傾向だと言われている。

他方で論理学を振り返ってみよう。標準的な論理学は「AならばBでBならばCであれば、AならばCである」と言う三段論法しか事実上論理の形がない。もちろんこれを元に、「馬が空を飛ぶなら犬も空を飛ぶ」と言う命題は真か偽かと言った変わった問題も作ることはできるが、所詮は三段論法では問題の種類も限られていて地アタマの測定には使えない。

論理学の発展のために、冒頭に挙げたような推論クイズから推論過程を抽出してきて論理学に加えることは出来ないのだろうか。ちなみにこれらのクイズで使われている論理はすべて三段論法と同じく古典的な確定論理であって、私が良く振り回す蓋然論理ではない。

さらにこれらの問題は決して孤立していないで、カードの数字や条件を変えるとか、円卓の席数を多くするとか、増やし過ぎるとあまりに複雑すぎて人手には負えないかもしれないが、一定の拡張は可能である。つまり応用動作が考えられる。言うことは一般論を導ける可能性があって、ケーススタディとしてふさわしいということだ。どうしてMBAの企業研究は研究で推論クイズは遊びに過ぎないと、一体どこが違うのだろうか。

一般に論理を使うと、総当たりよりもはるかにスマートにかつ短時間に答えを得ることができ、しかもしばしば理由まで分かる。つまり定理と似た位置にある。これを捨てておくとか単なる遊びにしておくのは、いかにももったいないではないか。

この点をつらつら瞑想してみた。するとどうもこれらの推論問題では論理脳は使うが、問題が少し違っただけで攻めるポイントがまるで違ってきて一定の共通論理が抽出されにくいことだ。だから論理学に三段論法しかないのはいかにも貧弱ではあるものの、他方でもっと使えるようなローカルルールが見えてこないのだ。ここが人の思考形式の谷間であり暗闇である。

もしこれらの推論クイズを専門にやるのが趣味を超えて職業になりうるならば、あるいは学校やカルチャースクールに専門課程が設立されるかもしれない。それが基であり将棋であり、そして何よりも今人材不足のプログラミングなのだ。遊びに限定してもクロスワードパズルとか数独とかがある。いずれもプログラマー用には良い脳トレ材料になりそうだ。

逆に考えれば脳トレが定理で形式的にできてしまっても、これはこれでつまらない世の中のような気もする。新規ビジネスも「定理で予言される以外のものは何もありません」では、チャレンジのし甲斐もないではないか。

本日の結論としては、残念だが推論クイズを利用することにより論理学を豊かにして、「使わないような数学に代わるより効率的な論理思考訓練科目を創生する」という企ては、どうも成功しそうにない。あるいはこれは、意味に全く踏み込まない純粹に形式だけの論理学が、実は不毛であると言う実態を示しているともいえる。結論的に言えば知恵や気づきはほとんど個別具体的であって、知恵強化の系統的訓練法などないのだ。

16、株投資家と友禅着物

私はどういう訳かこれまでに、株投資家及び数学者と気や意見が合ったことがありません。ここで株投資家とは、暇つぶしや副業でやっている個人投資家も含みます。

気が合わないどころではなく背反です。少なくともどちらかは絶対に間違っているあるいは絶対に異端だと思えるレベルで、頭の構造が根っこから違っているとしか思えません。まあ私は株も数学も素人で他方これらの「気が合わない人々」は少なくとも自称プロですから、異端勝負をしても私が負けるでしょう。ただ私は徹底的に素人主義で、その分素心に帰ってやっているつもりです。

先日東京都東部の下町エリアで、ふと端切れ屋さんの前を通り過ぎました。店と言ってももうボロボロで傾いていて、まもなく天寿を全うしそうなジジババがやっているような暗い店です。そこで端切れが「詰め放題500円」とかで売っていました。おそらくパッチワークが趣味のおばさんが買っていくのでしょう。

ところがその端切れをよくよく間近で見ると、いかにも元はさぞ立派で高価な友禅着物であったかと思われるほど良いものでした。もしかしたら店のババが戦前生まれで、

瞑想録(その14)

自分が持っていた着物を「先も長くないので取っておいても仕方ない」とばかりに端切れにして処分していたのかもしれません。

私はやはり先日横浜シルク博物館で、友禅や紬(つむぎ)等の着物を作る職人の工程を動画で見ました。画像の質からカラーがやっと入ったころの今から半世紀近く前でしょうか、今はプリントで大量生産していますが当時は3Kの大人海作業でした。絵付け職人はクーラーもないところで汗をかきながらじっと細かい作業をし、定着職人はそれこそ蒸籠(せいろ)の親玉みたいな機械で長時間蒸気蒸しし、仕上げ職人はこれまた何時間も川で洗って、最後に検査人が目を皿のようにしてハネがないかチェックして何割かを落とし、それで合格した物だけが売りに出されていました。

これほど手間がかかり労力集約型で現在価格なら数百万円もしただろうものが、戦後日本人の体形が大きくなったために相対的に小さくなって着られなくなり、今リサイクルショップに出しても1000円もすれば良い方だそうです。これがモノの価格と言うものであり、数字の経済学です。結局端切れでも売れなければ、品質としては高くてももはや粗大ごみにして出すしかありません。「どんなに手間や愛情が注がれていようが、売れなければゴミだ」、これが取引の世界です。そしてそうかと言って博物館で陳列してもらえるほどにレアでもないのです。

ここに真心とか誠実さと言ったものあるいは感動の価値と言った数字にならないものと、古着屋で数百円と言う数字になる商品的価値との間の典型的なかい離が見えます。株投資家的視点からはそれが良いものか悪いものか、あるいは目の前の株価の上がり下がりが実体経済を反映しているかいないかなど一切関係ありません。値が上げれば良いことであり値が下れば悪いこと、ただそれだけです。アベノミクスにしても私には「好回転しなかったけれども悪くないスキームだった」と見えるのですが、株投資家たちには「ばかばかしいデタラメで口にするのも汚らしい」そうです。

数字だけを見ている人にはこれは常識であり、こういう見方ができない人は目が腐っていてあるいはゆがむか曇っていてつまり一種のかたわで、当然に株には向かないあるいは人生もまともにできない人なのでしょう。でも果たして数字はそこまで、平等で色なしで客観的で絶対的なものでしょうか。学校の数学や会社の成績では数値主義や現場主義や成果主義が絶対善として奨励されますが、私には全宇宙や脳空間に対して数字や平面や線形空間の方が歪んで見えます。一言で言って卑しいです。

私は若いころ遠い親戚の商社マンに「車は絶対に買うな」と上から目線で訓示を垂れられました。「用があるたびにタクシーを拾った方がよほど割安だ」というのがその先

達の主張でした。でも人は金だけのために生きているのでしょうか。仮にそうだとしたためた金など、往々にして遠いような親戚に持っていられるだけでしょ。私は会社に入るとすぐに自腹で車を買、その親戚には破門されました。

商社員や株投資家それに数学者も共通点があって、それは「数字以外何も信じない」ということです。そしてこれらの人々といちいち気が合わないということにはやはりここに共通原因があって、私には数字が万能だとも客観無私だとも思えないということです。もちろんお金は大事ですが私はお金で患いたくないので、株で損をするくらいなら質素な生活の方を選んでいます。

商社員も株投資家も不思議ですが、自分が拝数主義ならば勝手に自分だけやっていればよいものを、なぜか周りの人に伝道しようと世話を焼いてくるのです。このしつこさや傍若無人さ、自分だけが正義で伝道は善行であるという思い込みはほとんどキリスト教です。その拝数教の人たちから見れば私など本当に救いようのない、自らありがたい神様を拒否している限りなく哀れな人と言うか人間以下に見えるのでしょう。

まあ私の方は多神教でアニミズムなので彼らに伝道する気はありませんし、彼らが不愉快でも知ったことではありません。有名なアニメの「ムーミン」に出てくるスナフキン、音楽と孤独と自由を愛する登場人物で作者のトーベ・ヤンソンの心や人生観をそのままに伝えていると言われているフィギュアです。この人の名言を集めたサイトもあるほどですが、その中から一つ例を挙げます。強欲のスニフに、「これは君が見ている間だけは君のものだ、それで良いじゃないか、ここに置いていきなさい」。これほど私の人生観を表している言葉はありません。

17、「役に立つ数学」を読んだ

東京大学工学部の西成活裕先生が書いた「とんでもなく役に立つ数学」と言う本を読みました。内容は高校1年生に向けて「数学は役に立つよ」と啓蒙授業をした時の記録で、そういう意味で特に難解ではありません。ですがこの先生の「数学者はオタクにこもらずに社会に還元すべきだ」とか「現場こそヒントの山だ」と言った主張が私と似ているので、この先生はどこまで現実に迫れただろうかと読んでみたわけでは

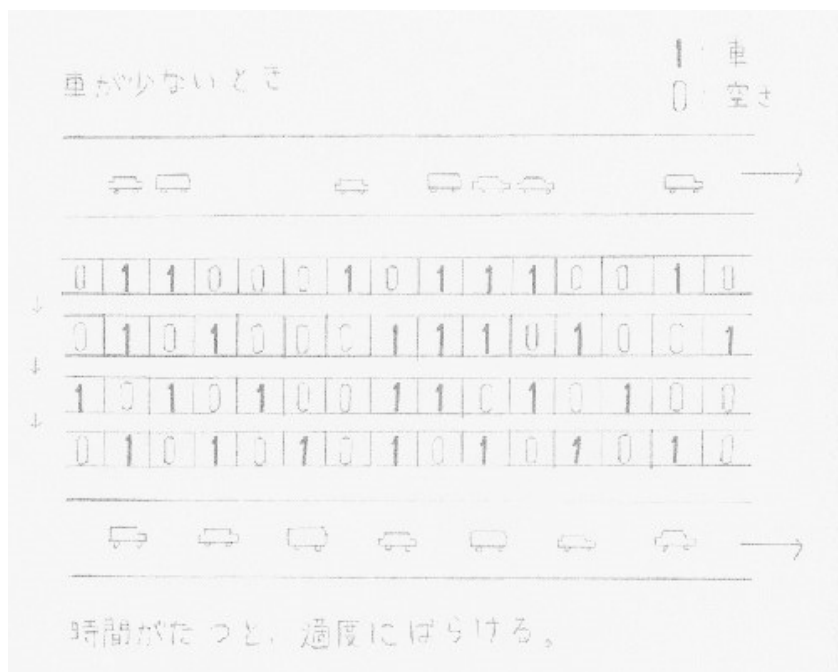
この先生が役に立つと具体的に主張している数学は①微積分学と②セルオートマトン、前者はライプニッツ以来300年の歴史を持ちますし後者も私が博士号を取った25年前にはもう話題になっていた、そういう意味でもはや「革新的に新しい」と言うことはありません。

瞑想録(その14)

微積分学の長所は名前の通りに詳細な解析ができることです。人類が有次元空間内に居る以上は微積分の考えは遅かれ早かれ出てきたでしょうから、「もしこれがなかったら数学の世界はかなりつまらなくなっていた」というたぐいの議論は不要です。この先生が微積分学を適用するにあたって強調しているのはモデル化、つまり複雑な事象を2, 3個の主要因のみに簡略化してしまうことです。そしてこの簡略化作業には知恵と気づきが要って、そこが面白くまた脳トレにもなると強調しています。

この主張も実は昔から言われてきたことなのですが、不思議なのはこの先生の場合に「単純化やモデル化と先生が目指しているところの現場重視とは真逆で単純化はむしろ現実逃避である」と認識していないことです。モデル化とは即ち、現実の複雑系の現象を微積分可能な式に強引にはめ込んでしまうことです。しかも微積分可能な関数は現実には数が限られているうえに分布が偏っていて実用的には初等関数と多項式くらいなのですが、先生はこの点については特に構わないようです。

次にセルオートマトン、これは計算機の助けがあって初めてできる、連続体の離散化による数値近似実験の一手法です。離散化による数値実験には代表的なものに有限要素法(FEM)等があり、いずれも連続無限自由度な現象を強引に有限個に落としこめる手法です。まあ数理が好きな特殊な人を除けば、これをクソゲーの一種だと思えば良いでしょう。例えば車の流れを下図のような等間隔柵を切った上に0, 1のビットを与えて、ルール通りに駒を動かしその流れを観察するという訳です。



瞑想録(その14)

この手法の特に微積分学や解析学と比べての長所は、特定の関数に強引にはめ込まずに「ありのまま」を観察できるということです。ですから数値を扱いかつ計算をしますが、実態的には計算機を補助員に使った実験です。決して理論ではあり得ません。そしてこの手法を使つての理論化の際に決定的に不利なのは、微積分や式の変形が一切できないことです。まあどんな現象でもそれなりに表現できてしまうこととの、トレードオフと言うべきでしょう。

そして式の変形や微積分ができないということは「なぜそうなるのか」と言う科学の疑問に容易に答えられないということです。これは極端に言えばこの手法はもはや科学でも数学でもないと言うことですが、この先生はその点を特に問題にしていません。この先生も私と似たところで壁に当たっている感じがします。高速道路の渋滞シミュレーションでは渋滞が徐々に後ろにずれていくことを観察していますが、①なぜ後ろにずれるのか、また②渋滞と非渋滞の相転移はどうして起こるのか、実は解明されているのかもしれませんが、一般にこの手法はこういう根本的な問いに弱いのです。

この先生の研究室では、これらの数理科学的手法を現実問題に適用する目的で現場の色々な人、看護婦とか坊さんとか養蜂人とかを呼んで話を聞き、それを数理に落とし込む勉強会を重視しているとのこと。でも問題意識が例えば「床ずれを数理化したい」と言うことでしたら結局は「現場の言葉がちょっと入った微積分かセルオートマトン」、つまり式への強引はめ込みしかできないでしょう。私もかつて会社員研究生だったころ辟易としたのですが、先生と言う商売は自分では何の手も汚さずに他人の上澄みだけ1時間程度の聞き取りでただ同然で頂こうとします。現場なんて聞いただけで分かるはずがありません。

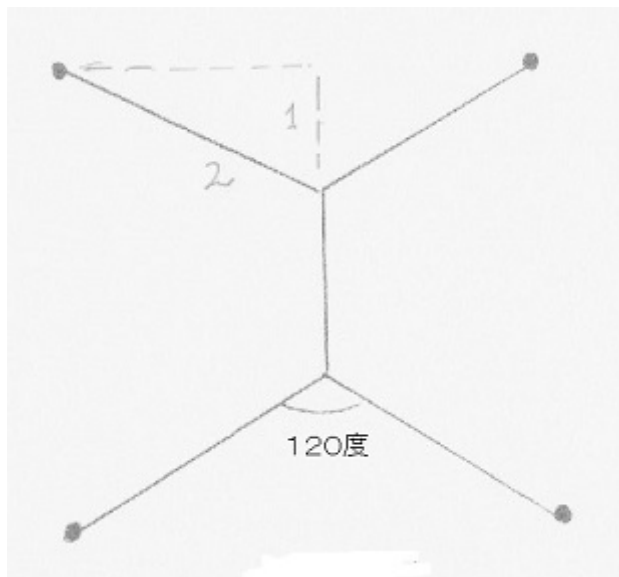
現場に本気で謙虚になれば、現場にはそもそも従来の数字や四則演算にはめ込むことが失礼なほどに異質な世界であります。そしてそこにおける「従来の四則演算を超えた未発見のアルゴリズムをこそ何とか掘り起こすべきだ」という方向に、発想のコペルニクス的転回をすべきではないでしょうか。

最後に先生があげた例を1つ紹介します。異なった2点を結ぶ最短線は直線です。これはとりあえず良いですよ。そして先生が生徒に与えた問題は、正方形の頂点に当たる4つの点があったとして、「これら4つの点を結ぶ最短線を考えなさい」と言う問題です。これは頭の切れや柔軟度が分かる、実に良い問題です。

そして答えは下図のように「上下Y字型」になり、直線にはなりません。その理由は真

瞑想録(その14)

ん中の線が2本を兼ねているからです。この問題は三角形の角度や合同しか聞かない現状の初等幾何の問題よりもはるかに優れています。すると生徒が「なぜYの合流点がちょうど120度になるのですか」と素朴に尋ね、先生は「それは微分学を学べば分かります」と答えています。



確かに微分学を用いると合流点の角度は120度と出るのですが、生徒の質問の真意は「合流点で1周の角がちょうど3等分されるなんて調子良すぎないか」と言うことです。そして微分学と言っても、この素朴な疑問には答えてくれません。理由は120度の時にその上の直角三角形は辺の比が1:2になり、これが先ほどの「1本2役」に対応するためです。ここまで説明してあげてほしいものです。

18、ニート&リストラ

まだ過去を振り返るほどの年でもないのだが、ふと自分を振り返ってみてどうしてならなかったのか本当に摩訶不思議な境地が2つある。ニートとリストラだ。どちらも限りなく相性抜群なのに、なぜか今のところなっていない。

ニート、働ける五体満足な良い若い者が定職に就かずに昼間からぶらぶらしている状態だ。私のように野望も欲も常識もない人間にはぴったりの境地なのに、なぜかならなかった。ちなみにニート伝道者のPHAさん(MSワードのエラーを避けるために以後大文字で書く)の著書を読んでみたが、性格的にはまるで自分と双子のようだった。ちなみに彼の口癖は「だるい」であり、私の口癖は「たるい」である。

瞑想録(その14)

彼の本に「ニート適合度」のチェックシートがあったのでやってみたところ16点満点中8点だった。微妙なところだ。性格の所は全部適合したのだが実行資本の部、即ち親は金持ちかとか体力に自信があるかとか友人は多いかと言った面は全滅した。つまり私はきわめてニート向きなのだが、資金が切れたところで首をくくる、持続性のない非根性ニートなのだ。

私がニートにならなかった理由を知るために二十歳のころを回想してみると、第一に親と全く反りが合わなかった。必然的に自活するしかなかったのだ。もし衣食住に金がかからなければ、あるいは日本がベーシックインカム制なら、私は迷いなくニートになったことだろう。PHAさんによるとニートを続けるのに重要な点は、「軽い友人の存在」だと言う。私は友人など1人も居なくても面倒が減るだけで大いに結構なのだが、他方でちょっとしたうんちくを垂れる相手も居ないのも確かに苦しいのかもしれない。

PHAさんはシェアハウスに住んで猫を飼っているが、私は猫の毛でアレルギーになってしまう。それにシェアハウスだが、こういうところに集まる人間は往々にして社会訓練のできていない幼稚で癖のある人種が多いのも知っていた。

結局私がなぜ会社員になったかと言うと、総合的にニートよりも楽だと判断したからだと思う。フリーランスのように浮き沈みもなく、言われたことをやっていれば良くて時間さえドブに捨てればすむ、まあ動物園の隅っこの人気のないサルみたいなものだ。プライドなんて1円の特にもならないから、サルさん大歓迎だ。会社員としての最大の苦痛は昼の連れ飯と夜の宴会、これはドドド地獄だったな。

私はそもそも、大人が作った既成の常識が窮屈すぎて耐えられなかった。だからもしかしたら、赤軍派になったことも考えられる。世の中をぶち壊してアナーキーになったところでもっと俗物がより嫌らしいヒエラルキーを作るだけなのだが、そう分かっているでもぶち壊したかったね。今で言えば、若い奴が現状に絶望してイスラム国に入隊するようなものだ。ただ私はもう少し小利口だったので共産党の欺瞞や学生運動家の内心の傲慢は見抜いていたから、結局押しとどまった。

PHAさんはニートになれた理由を、「ひとえにインターネットのおかげ」と言っている。ネットのおかげで顔見知りになる必要がない薄い友人が常駐するようになって気が楽になり、プログラミング技術で小銭も稼げるので「会社なんか要らないよ」と言うことになったそうだ。「会社に通って疲れてそこで稼いだ金で休日に憂さ晴らしをしたりマッサージ屋に行ったりするのは愚かではないか」という訳で、これにはもろ手を挙げて

瞑想録(その14)

賛成だ。だから私も今頃若かったら、ネットのおかげで晴れてニートになっていたのかもしれない。

という訳でやる気もなく会社に入って平社員をもう数十年もやったけれど、私のような役に立たない社員が未だにリストラにあっていない、これもまた大いなる七不思議だ。そもそも会社に入った前向きの理由を強いて挙げれば、自分のライフワークの「素朴な疑問と意外な気づき」の肥しのために場数増やしを実行しただけだ。

つまり小説家がネタ拾いのためにインドに出かけて行くような、利己的な理由しかない。だから今は入退社時間を自由に設定できて満員電車を避けられるというやはり利己的な理由だけで研究職に居るのだが、特許の1枚も書いていない。決して何も考えていないのではなくて、金にならない空想ばかりをやはり自分のために考えているのだ。

世の中を見渡すと20年前の山一証券と長銀と北拓銀行の破たんから始まって、ヤオハン、ダイエイ、そごう、日本航空、三洋電機、シャープと次々に大手がつぶれていった。これらの会社の取引先や関連会社も、随分と整理されたことだろう。都銀12行はメガ3バンクに統合され電機産業も今3つ程度の椅子の椅子取りゲームをしているが、統合と言っても聞こえが良いだけで実際は多くの行員が外に出されたことだろう。

こんな悲惨な状況にあって私よりも遥かにやる気と実力のある人々が整理されている中で、なぜか私が整理されていないこのラッキーさ。これは単に私の会社がまだリストラをやっていない、ただそれだけのことだ。私の会社はたまたま、「ホームランはいらないからゴロとバントでちまちま稼いで行け」が社是のローリスクローリターンのやる気の薄い会社だったおかげで、スタンドプレーもない代わりにデッドボールもなかったという訳だ。もし若いときに第一志望の会社に受かっていたら、今頃リストラされてどこかでガードマンでもやっていることだろう。

まあ人生万事塞翁が馬、当たるも八卦当たらぬも八卦なのだ。これからはドッグイヤーとか言われてますますそうなって「5年過ぎれば大昔」になるだろうが、どうやら私は逃げ切れそうだ。後は会社で習得した唯一の成果である事なかれ主義で、「頼むから何も起きないでくれよ」と願いつつ充実した後半生を送る予定である。

19、「役に立つ数学」を読んだ(その2)

東京大学工学部の西成活裕先生が書いた「とんでもなく役に立つ数学」については以

前の記事で触れてあり、①微分は強力な武器だが現実問題に適用すると既存の関数への強制はめ込みになる、②セルオートマトンでは強制はめ込みは少ないが事象の原因の解明には限界がある、としてまとめたところです。

私はこの本が本来指摘したい「知恵」の位置はむしろ、これらの微分やセルの手法に至るまでの工夫の方にあると感じたので、本日はそちらの工夫の面をまとめます。なおそのうちの1つである①「4点連結最小距離問題」についての論評は前回すでに触れました。

②<本の記述>無駄の効用:ニュートンの法則の「力と加速度は比例する」については最小作用の原理、つまり「神様は無駄を嫌う」で一応の説明はつくが、ここで事物が無駄であるかないかは簡単には言えずに長期的視野が必要である。

<論評>西成先生はセルオートマトンのほかに流体力学も研究したと書かれています。ここで流体力学の基本定理であるナビエ・ストークスの式は最小原理を満たしません。そしてその対応として、乱流現象があるわけです。乱流自体は物の押し流しと言う直接的観点からは無駄ですが、物を混ぜるあるいは伝熱性能を上げるという観点からは大きく寄与しています。このように先生の実験分野に、分かりやすい実例があります。

③<本の記述>整流板:2次元セルオートマトンを使うと、部屋の中で火事等が起きてパニックになり人々が出口に殺到したときに出口近くに柱があった方が、柱が邪魔になるどころか人々が早く全員退避できるという結果を得た。

<論評>これも流体力学では整流板として常識であって、特に驚くことではないと思います。

④<本の記述>スパゲッティ問題:片持ち紐で先の方がどうしても揺らいでしまう問題をスパゲッティ問題と呼び、宇宙空間での作業等に応用がある。これを回避するためにまず揺らぎと逆の波を入れてみたが今一うまく収まらない。そこで発想の転換で揺らぎと直角方向に波を入れてみたら効果があつた。

<論評>これは素晴らしい気付きで、まさに逆転の発想と言えると思います。ただこの種の逆転の発想、この問題以外にあまり応用先がないように見えます。その意味でこの気づきは地動説の発見と言うよりも、平凡な主婦が良くやる裏技の気づきに近いように見えます。

⑤<本の記述>証言の信ぴょう性問題:ある人がひき逃げ事故を目撃した。証言によると、「一瞬のことで良くは見えなかったが確か白いタクシーだった」とのこと。ところ

でこの町で一番大きいタクシー会社の色は黒である。これらを総合してこの証言者の正答確率を計算すると0.5を下回った。従ってこの証言は採用できない。

＜論評＞この例は「主観の非論理性と数字の客観性」を訴えるための例ですが、実はこれにはトリックがあります。タクシーの黒白比が大きいとどうしてもこういう結果になってしまうのです。試しに証言が「タクシーが黒だった」時の確率を計算してみなさい。おそらくほとんど1.0になって確定します。つまりこの証言者の証言が何であれ「犯人は黒タクシー」と言うことになってしまい、目撃者の証言は無視されたと同じになります。これって裁判の法理に反しますよね。そもそも0.5を境に切るのが平等に見えて平等でないのです。ですからこの例は先生の意図に反して、「数字がいかに信じられないか」の良い実例になっています。

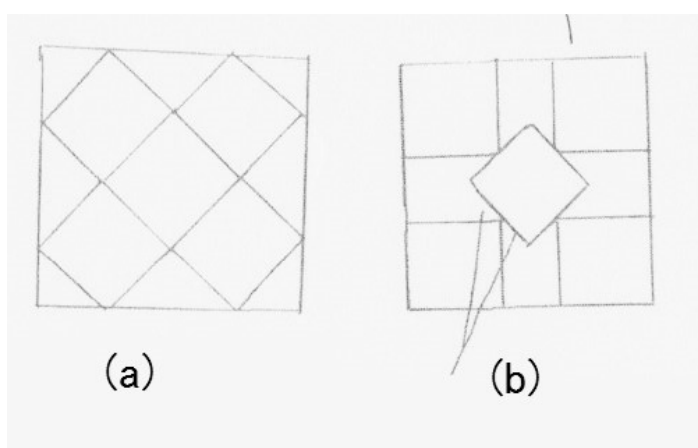
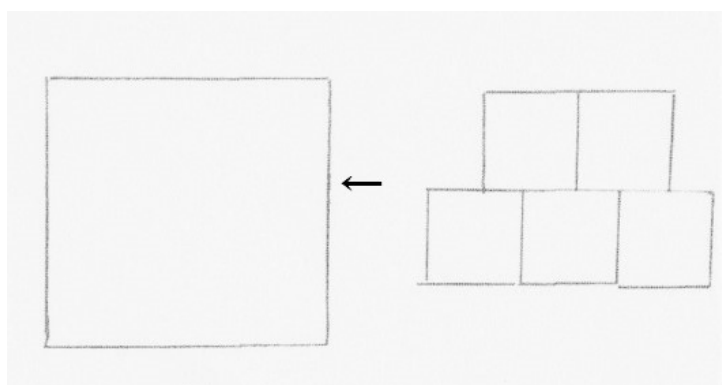
⑥＜本の記述＞レストラン問題:「客が6人だったら快適だが7人以上だと窮屈で不愉快になるレストランに13人が行くべきか否かを迷っている」と言う設定でセルオートマトンを用いて満足度を計算すると、「時には譲り合う、満足した次の日には遠慮して行かないでみる」と言う譲り合いの行動パターンが総合的満足度として高いという結果が出る。

＜論評＞これもセルオートマトンで常識を否定する例ですが、一般化は危険です。譲り合いが単なる美德でなく実利かは、①行きたい人の総人数や、②座れたときや行かなかったときの(不)満足度の点数の付け方で、結果が全く変わってきます。特に行きたい総数の13人が満足限度の6人の約倍と言うところが実はトリックのネタで、これらの数字を変えると大抵の場合「エゴの方が満足」と言う結果になります。これも一種の数字のトリックです。

⑦＜本の記述＞箱詰め問題:小さな正方形の箱5つをどう詰めれば最もコンパクトになるか(下図1)。正解は下図2の(a)でなく(b)になります。(a)も極小ではあるが最小ではない。

＜論評＞これも脳トレに極めて良い、本当の幾何問題です。変な形の角度を求めなさいなどと言うひねこびた問題よりもよほど健全です。この問題は四角形の代わりに円(土管)にしてみる事に気付くと、(b)の方が密に詰まっているのは容易に分かります。つまりこの問題の主題は「円に置き換える」と言うひらめきに至れるか否かになります。なおこの問題も「四角形の数を6や7にするとともにはや単純には解けない」という意味で、応用性の極めて狭い問題です。

瞑想録(その14)



⑧<論評のみ>同期とロックイン:教科書には出てきませんでしたが、セルオートマトンは同期やロックイン現象と言って、波長がわずかに違ってはめられてしまう問題に威力を発揮するように見えます。ロックイン問題は理論では解けないので、ぜひオートマトンでやってほしいですね。ちなみにロックイン等の現象は、粒子よりも解明されていない波動に関する現象になりますし、渋滞学と同じく現場の応用はたくさんあります。

最期に全体をまとめます。以上の例で見た知恵、いずれも意外なひらめきと気づきでしたがこれらはそのほとんどが単発で終わっています。地動説や万有引力のように「たまたま応用の広い気づきに幸運にも当たった人だけが称賛され、他方では無名の普通の人々が日々小さな気づきを積み重ねて生きている」、人生や気づきとはそういうものかもしれません。

20、四角が円に映る錯視立体の種明かし

瞑想録(その14)

明治大学(前東京大学)の杉原厚吉先生の作った錯視立体の動画が今話題になっています。下の動画の通りですが、四角形が鏡に映すと円になるというものです。

<https://youtu.be/oWfFco7K9v8>

私はこの先生とは昔にシミュレーション学会で一緒したことがあるので知っているのですが(先生は私のことなど覚えていないでしょう)、先生がこんな研究をされているとは知りませんでした。

この錯視ですが、まず鏡が歪んでいるわけではありません。その証拠にオブジェを持つ手は歪んでいないでしょう。ではどういう仕組みかと言いますと、これはあくまでも私の推測なのですが、まず筒の形状自体は断面が円かそれを少し歪ませたものです。その証拠に四角形に見える鏡のこちら側の図形の側面に、辺に当たる線が見えないでしょう。動画の中で最初の「六連形」のみ先生は180度回転させますが、その90度に当たる場合が一番本来に近く見える形です。

そして錯視の核心は、我々は実物をカメラの視点から直に見ていますが、鏡に映った像を我々は鏡の向こう側から見ていて(カメラの鏡対象の位置から見ていて)、見る位置が全く異なるということです。あとは筒の切り口を、実の方から見ると四角形に、虚の方から見ると円になるように切っておけば良いわけです。そのような形とはおそらく、山(谷)を周方向に4つ切ったような形でしょう。

それにしてもここまで完成度が高くて2位と言うことは、1位はどんな動画だったのでしょうか。

21、「浜矩子」を読んだ

最近にエコノミストの浜矩子(のりこ)の、「成熟ニッポン、もう経済成長はいらない」と言う本を読んだ。アベノミクスがその理念に反して停滞している現在この人はアベノミクスをアホノミクスと呼び、「日本や優雅に老いていくべきだ」と正反対の主張をしている。この主張自体は注目の価値があるので、そのハマノミクスのレシピの詳細を知りたかったのが読んだ理由だ。

彼女の主張を要約すると、①国家も人と同じで年を取っていくことは歴史が証明している、②国家と言う縛りはもう不要で一極集中から地域ネットワーク社会に転換すべきだ、③これからはモノづくりでなくアイデアで稼ぐべきだ、④貧富の差はこれを強力

に是正するシステムが必要だ、⑤日本人は庭いじりをする穏やかな老人に落ち着くべきだ、と言ったところか。

だから①アジアの主権を中国に取られてもそれは仕方ないことだし、②2番どころか10番でも十分に結構で、③既得権益は全員がこれを手放すべきであり(老齢年金が半分になっても老人は文句を言うな)、④「成長とか人口増とかのイケイケ精神の金縛りが諸悪の根源」という訳だ。ここで面白いのは彼女がエコノミストのわりにその主張は経済指標とか数字に依らずに多分に精神主義であることで、これはおそらくそれまで総研の研究員だったという経歴のせいだろう。

彼女はこれらの主張を安倍さんが首相になる前から言っていたので、正確にはアベノミクスの対案ではない。だが結果的には、アベノミクスに対する味のある対案になっている。ただ惜しいことに精神論すぎて、アベノミクスの諸手段とどう比較したらよいのかが伝わってこない。彼女自身はイメージがあるのだろうが、読者には具体的施策がまるで見えないのだ。

アベノミクスは日本経済のIPS化(初期化、若返り化)であるから、ハマノミクスの視点からは根本から間違っていることになる。そして彼女が理想にするのはおそらく西欧や北欧の成熟社会だろうが、これらの国々もここ近年少しではあるが経済成長を見せている。それに対して浜は「経済後退も当然にあるべき」と言う主張である。こういう主張はありうると思うが、退却は攻撃よりもはるかに難しいのに精神主義一本槍でこれができると思えない。それこそ戦前の「神国日本」ではないか。

さらに浜はアベノミクス攻撃の一番槍に、「アベノミクスには日本人の心が考慮されていない」と主張するが、アベノミクスは「金融と財政は使いやすくしますからあとは国民のみなさんよろしく成長してくださいよ」と言う恐ろしくノ一気な、つまり国民の善意に全面的に期待した施策である。これが戦前なら財閥や国策会社が阿吽の呼吸で協力したことだろうから、実は日本国民の勤勉性や誠実性をやりすぎである程に考慮しているのだ。そしてこのところが今うまく回っていない現状にある。

「一極集中の効率化を捨てて、経済成長率もマイナスになり、もはや一流国とは言えないが、国民一人一人は好々爺のように心豊かに暮らす国」、大変結構な構図で私個人は大賛成で是非行なってほしい。だが少なくともアベノミクスの3本の矢の「金融、財政、民活」程にはブレークダウンして、「うまく回転すればソフトランディングできる」と確信できるほどの具体案が欲しいところ、そういう具体的手順はついに見いだせなかった。そもそも成長路線すらうまくコントロールできない飛行機が、後退しつつソフト

ランディングなど難易度が違い過ぎる。

ところで最近私は全く別の本、先日の記事でも紹介したがニートの実践的伝道師である PHA さんの「ニートの歩き方」と言う本を読んだ。「寝たいときに寝る」がモットーの京大卒の PHA さんが、「働いて疲れてマッサージ屋に金を払う」ばかばかしい人生循環に気が付いてニートとして生きるという本気の壮大実験を行った、その報告書だ。ここで彼の秘密兵器は、インターネットの特に SNS である。自転車等の必需品もツイッターで呼びかけてすべてただで調達し、時には夕飯すらおごってもらう。さらに最近ではアフィリエイトなどで稼いだわずかの金の一部を面白そうなニートに寄付して、ニートの新たな在り方の模索の種にすることまで行っているという。

この PHA さんに見るニートの「物もいらないから働かない」と言う低欲望、そのわずかな金からも気が向けば寄付をしてしまう遊び心の相互扶助、シェアハウス(ギークハウス)に住んで半共同生活でワイワイと楽しくかつ自由に過ごす過ごし方、これってそのままで浜矩子さんの提案した「美しく老いる」の具体的な回答になっていないだろうか。同志社大学教授の浜矩子さんの問題提起の答えはおそらく面識もなければ彼女自身も気づいていないだろうが、やはり京都に立地の京都大学 OB の PHA さんがすでに実践して成功をおさめて回答を出しているのだ。

どうだろう、私がどこかのテレビ局のプロデューサーだったらこの2人の対談を企画したい。結構な視聴率が取れると思う。ちなみに PHA さんが考案してオープンソースとしてそのノーハウを公開しているギークハウス、これがいま日本の隅々に広がりつつあってもはや日本の全国的現象と言えるレベルに近づいている。しかもこれはネット等の技術オタクが集う、いわば技術集約型のポテンシャルの高いシェアハウスだ。近い将来にギークハウスが地方の中心となって地方独立化を達成して、図らずも浜さんが主張する一極集中でないネットワーク型の多都市自立モデルに成長していく可能性を内蔵している。

アベノミクスは関係者に言わせると「成果が顕在化するのはいこれから」だそうだが、国民は何十年も待つ気はない。他方でハマノミクスの方は、草の根的にすでに成果が出始めている。皮肉と言えど皮肉であるが、これが本当の経済であり政治だ。

22、昭和天皇のご落胤

先日都下のある画廊で、「昭和天皇のご落胤」を自称する人物に偶然出会った。お名前を井上浩郷さん(様)と言う。同氏の語るところによればこの人は終戦間近の昭和1

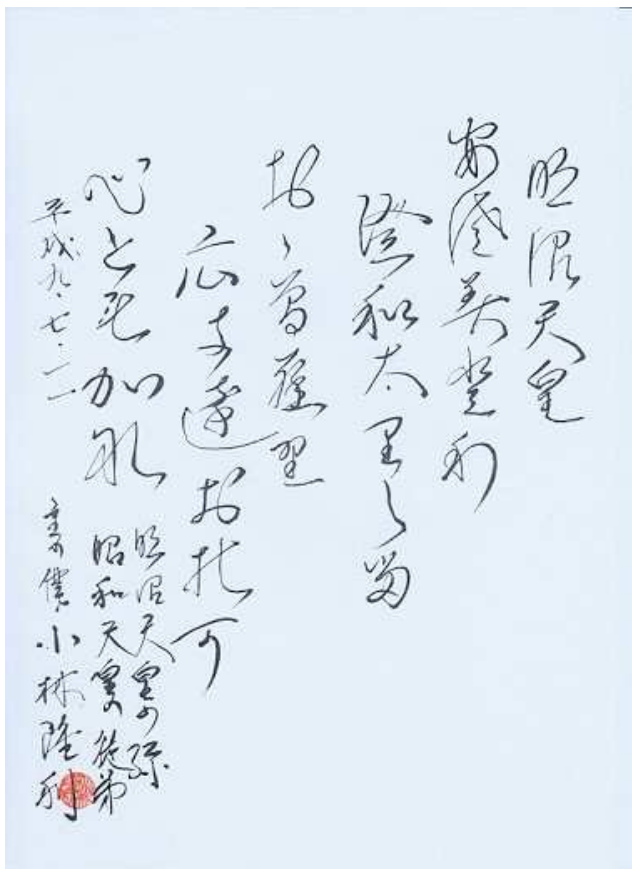
瞑想録(その14)

9年生まれで、戦前は貴族がみな軍隊に入ったので「皇族が全員戦死するリスクを防ぐために」昭和天皇が平民である母に生ませたのだという。

その後母方に育てられ、平民として今までの人生を平和運動や地球環境保護に捧げてきたとのことだ。そして彼の存在は旧貴族の方々や宮内庁、さらには主要な政治家等はみな内心知っていることだという。

しかし考えてみるとこれは極めて重大な話である。もし真実なら平民の端くれがおよそ口もきけないと高き方と話をしていることになり、またもし真実でないのならこうして記事にしていること自体が皇族の方々に要らぬ迷惑をかけていることになってしまう。

こういう話はむしろ胸のうちに収めていた方が良いでしょうが、今私がこの記事を書いているのには理由がある。その時に同氏から頂いた「証拠書類のコピー」の中に、明治天皇の実孫である小林隆利牧師(この人についても諸説がある)からもらったお墨付きの書があった。それがまた達筆な変体仮名なのだが(下図)、単にこれを解読できたことを記したかったのである。



瞑想録(その14)

変体仮名は現在義務教育で習う平仮名に選ばれなかった仮名のことで、形象的には草書よりさらに崩した漢字である。これが形を重視する私のアナログ理論と相性が良いので以前からブログ上の師匠である yoshy さんに習っていた。最近 yoshy さんの送り仮名さえあれば読めるところまで来たのだが、今回初めて自力で読むことができたのだ。

書の解読結果は右の行からまず「明治天皇」とあり、続く5行は「浅緑 澄み渡りたる大空の 広きを己が 心ともがな」と読め、最後に左下に「明治天皇の孫、昭和天皇の従弟、主の僕(しもべ)小林隆利」とある。ちなみに中央の5行は明治天皇の御製である。

御製全部を元の漢字で書き下すと、
安佐美登利
澄和太里多留
於々曾羅埜(野)
広支遠於能可
心止毛加那
である。

そして御製の大意は、「浅緑色に澄み渡るこの大空、この大空のような広い心を自分の心としたいものだ」と言った感じである。ちなみに「浅緑」はその色から「(草木染の)糸」や「野辺」にかかる枕詞であるが、ここでは本来の意味に用いている。

なお、これらの書類がどのように井上氏のご落胤説の根拠となりうるかについては、ご本人がホームページを開いているのでそこを参考にされたい。私は言及する立場に全くない:

<http://www.natural-cma.com/rekishih.html>

本当にご当人に会ったという証拠ではないが、画廊でご当人を写した写真を掲載する。掲載に当たっては事前に、ご当人の許可を口頭で得てある。また写真の当人の右の絵は同氏による絵画で、香淳皇后が養蚕をしておられるところだとのこと。またその画廊の展示は大規模ではなかったものの絵画や書道や生け花や裁縫や冶金等多岐に及び、かつ出品者は私でも聞き覚えのあるほど有名な方々の縁者たちであった。



最期に再度念を押したいが、私は敬愛する皇族様たちに何らのご迷惑もかけたくない、単なる一庶民である。

23、マクドナルド様のご威光

マクドナルド、日本にハンバーガー文化とアメリカ式合理経営を定着させたヒーローです。でも今はもはや正しくは「です」でなく「でした」かもしれません。私自身も最近は何とんど行っていません。マクドナルドの業績と歴史を振り返ってみます。

日本マクドナルドの育ての親は自称「日本のユダヤ人」の藤田田(でん)氏、1971年に銀座三越店1階に1号店をオープンしその後店舗数を増やして一時は関東圏では「1駅に1店舗はある」と言われるほどになりました。今世紀初めには4000店を伺うほどにましたが、今は多少閉鎖して3000店を切っています。

私は学生時代にユダヤ人の友人が結構居て、その関係でユダヤ本はかなり読みました。もちろん山本七平の「日本人とユダヤ人」とかラビ・トカイエルの「ユダヤ5000年の知恵」等と並んで藤田さんの自伝も読み、その徹底した合理化精神に感動したものです。

思うにこの初期のマクドナルドには3つの大きな特徴がありました。即ち、①アメリカ

瞑想録(その14)

の自由と繁栄の象徴、②割安な価格設定、③パンに無造作に具を挟む意外性です。この当時まだ海外旅行や海外留学が一部の金持ちに限られていたところに、「マックを食べればアメリカに行った気になる」この高揚感は私たち貧乏学生を虜にしました。マックはすぐに「お歳暮と言えば高島屋」とか居酒屋で「まずビール」みたいに、「ちょっと食べるならマクドナルド」と時代のデファクトになったものです。

それから半世紀弱、今のマックは自由と繁栄の象徴でもなければ割安でもありません。現にセットで700円くらいします。スーパーの寿司セットの方が持ち帰りではあるけれども安いほどです。牛丼なら2杯食べられます。ハンバーガーチェーンもロッテリアとか MOS とかバーガーキングとか増えて内輪の競争も激化したうえに、牛丼やファミレスや100円寿司のチェーンも展開しさらにスーパーやコンビニや弁当チェーンや惣菜チェーンと、またインスタントやレトルト食品と代替物はあふれるほどあって、マックはもはやそのうちの1つでしかないのです。

そもそも高揚感のご威光が失せてデファクトの位置から滑り落ち、アメリカ式合理店舗運営のノーハウも日本に定着し終わった現在、マクドナルドの日本における社会的使命は終わったというべきではないでしょうか。

ちょうど先日から任天堂の「ポケモン GO」と提携して大きな話題となり株価も急上昇しましたが、私はこの効果も一時的とみています。だいたいマクドナルドは10年位前から年末にポケモンカレンダーを頒布して客数を稼いでいましたが、ここ数年はドライに妖怪ウォッチに切り替えていました。それがまた日和見で再度ポケモンとよりを戻す、いかにもアメリカ式と言うか節操と義理がなさすぎます。この節操のない鈍感さが裏返せば自分のご威光が失せていて他の惣菜に客を取られていることに気付いていない、その痛さにつながっています。

私も自分からマックのご威光が去って気づいたのですが、ハンバーガーとコンビニ等で第一パンの製造により100円程度で売っているカツサンド等の惣菜パンと、どこがどれだけ違って値段がいきなり倍になっちゃうのでしょうか。まあそう言っている私も、惣菜パンとセットになるのは「コーヒーとポテト」よりも「お茶とカップエビセン」ではないかのような幻覚がまだあって、その意味ではご威光が抜けきっていないのかもしれない。

ですが売る店をコンビニでなく「ファーストピアチェーン」などと横文字にして売り物も「惣菜パン」でなく「イベリカー」などと横文字にすれば、これはもうバーガーセットに400円で対抗できるように思います。だいたい先にも書きましたが、ハンバーガーは食

瞑想録(その14)

べにくい。中のミートははみ出てくるし野菜はぼろぼろ零れ落ちるし、食べ終わった後は指がソースだらけになります。だったら片側がくっついてある惣菜パンの方がなんぼか食べやすい。

日本マクドナルドの歴史を見ると、長い間創業の藤田さんが社長でしたが、その終盤にはバブルが崩壊して収益がどっと落ちました。そこで藤田さんの年齢もあり米国のマクドナルド本部は、アップルの日本法人等で目覚ましい成果を上げた原田泳幸さんに社長を交代させました。いかにも米国らしい成果主義のトップのヘッドハントです。そして最初の数年間に原田新社長は業績つまり総収益をV字回復させました。

ところが最近読んだ「マクドナルド失敗の本質」(2015年2月)によると、初代の藤田社長は合理的ではあったが社員を大切にしたら、原田社長の方は単に米国式の特にハゲタカファンドが実行している「目先の利益主義」を馬鹿の一つ覚えで実行させただけだと言います。具体的には藤田さんの時代にはほとんどが直営店であったものを切り裂いて売却してフランチャイズ制にし、その売却益の計上で利益を見せかけていたのが実態だということです。

ですから店舗をほとんど売ってしまって「埋蔵金」を使い果たしたとたんに業績は悪化、そして社長の椅子はカナダ人のカサノバに変えられて今があります。要するに原田は英雄どころか戦犯だったわけです。腐ったチキン問題は皆さんこれを言い訳に使ってはいませんが、それ以前からあった凋落傾向の単に引き金でしかありませんでした。

原田さんのフランチャイズ化によって店員の質は下がりました。それに加えてポケモンシリーズやWi-Fi設置等のお遊び、これは安い商品で長く居座るガラの悪い若者の客を増やしただけで、その結果最も客単価が良いファミリー層を追い出す結果になりました。先に挙げた本の記述通りなら今のマクドナルドは、ハゲタカファンドの「目先主義」がいかにも日本に不向きかを示す良い見本のようなものです。

そして先日のポケモンGO、味や値段で勝負するという食品チェーンの本道から外れて居座り客のみを増やす失敗を繰り返しているだけです。いかにも外人社長の思いつきそうなことです。もしかしたらGOで株価が高いうちにどこかの投資会社に売り逃げてしまう作戦かもしれません。まあGOもうわさ程長続きしないで一通り取り切ったら終わりでしょうから、早くした方が良いでしょう。

さてこうして社会使命の終わった会社、閉鎖するか苦し紛れで新業態に改編するか選択はあります。例えばアナログフィルム業界、米国のコダックは一旦清算し、日

本の富士フィルムは総合医療産業に脱皮しつつあります。MIXI も SNS が飽きられてひん死の所をスマホゲームのモンスターで息を吹き返しました。古い話になりますがポケベル会社は清算になって、携帯会社に転身しませんでした。マクドナルドはどちらでしょう。まあお手並み拝見と言ったところですよ(遠い目)。

24、円安誘導

今はアベノミクスと言うことで政府は一体になって円安誘導に必死である。その基本的手法は日銀によるお金の増刷と低金利だ。私は経済についてはまるっきり素人だから単純に考えると、物価はトータルカレンシーに反比例するだろうし、金利が低ければ円を買う魅力も薄れる。

ところが安倍政権の思惑ほどには円安になってくれない。他の基幹通貨であるドルやユーロに比べてまだ安全で手堅いと思われるのだろう。またここで素人だから素朴に疑問に思うのだが、円高は結構じゃないか。円が倍になれば我々の資産は寝ているだけで倍になるのだ。逆に円安になると寝ているだけで半分になってしまうのだ。どうして反対の声が出ないのだろう。

振り返って円が強いとき日本、国でなく国民はどうだっただろう。バブルの時は米国のロックフェラーセンターまで買った。ただし買ったのは国民1人1人ではなく某財閥企業である。バブルショック後も特に民主党政権時代は政権が為替変動に無関心で結構円高になり企業は悲鳴を上げていたが、なぜか「国民生活が円高の恩恵で豊かになった」という思いはほとんどない。この「思いがない」ところが、単純な「需要供給関係」の経済学とずれているのだ。素朴主義者の私としては、この点をもっと見つめたい。

確かに割高だと物は売れないから、もっと安くしようという裁定が働く。それが自由競争経済の基本だ。だが円が高いうちはみな金持ちだから、より豊かな生活ができるはずだ。そして実際に豊かになった。1ドル360円の固定相場制だった半世紀前、ほとんどの人は木でできた狭い家に住んで汲み取り便所だったではないか。それが今はどんなに貧乏な人でも石の頑丈な家に住んでトイレは水洗、コックをひねればお湯が出て全員が携帯電話を持ち、クーラーは1部屋1台で車も全員が持っている。昔はお祝いの時だけだった寿司だって、今は1皿100円で庶民の食べ物だ。すべてが円高のせいではないものの、日本人の生活レベルは飛躍的に向上している。

客観的には向上しているのだ、が誰も感動や実感していない。それはこれらの向上

瞑想録(その14)

がすべて、身の回りの最低限の衣食住に関することばかりだからだ。衣食住ですべてが終わって「自分はリッチだ」と思う人はほとんどいないだろう。リッチと言うからには、プール付きの豪邸に住むとか、ヨットを所有していてしばしばクルーズに出るとか、気が向けば世界のどこにでも旅行できるとか、あるいは避暑地に別荘があって夏休みは1月もそっちに滞在しているとかなだ。実際欧米人は、単に店員程度でもこういう生活をしている人が居る。

ところが日本が円高でリッチだったときに、こういうことがあっただろうか。相変わらず満員電車で詰め込まれて会社に通い、長期休暇と言えどもありがたそうに「勤続10年ごとに1週間」程度で、給料のほとんどは生活費と飢餓貯金に消えていた。自分で車を運転して行って箱根に家族で一泊したところで、結局は単にくたびれもうけだ。自宅は借家か集合住宅か30坪以下で隣が丸見え、これでリッチな気分になれるわけがない。海外旅行だって1週間で回されてもほとんど強制連行で、旅行会社に稼がせているだけだ。テレビを見るとよく外国人が日本にも長期滞在しているが、あれほどでないと意味がない。なぜ外人にはできて、日本人にはチャンスがないのだろう。

現実の円高の裁定の方は作動した結果中韓台に売り負け、会社は倒産したり人員整理されたり就職難だったり派遣社員になったりした。つまり割高裁定の方は「全員が等しい割合で縮小する」のではなくて、「運の悪い人は0で悪くない人は1」と言う激しく不平等な凸凹なものになった。これでは国民全員が、「国際貧乏になっても円安がよっぽど良い」と思うのも当然だ。それに衣食住しかない現状をさらに削れと言っても、無理がある。

以上の論理順序で日本国民は全員が経済原則に反して、「円安にしてください」を大合唱する現状にある。もはや木っ端の汲み取りの家などないし、タヒチの別荘をちょっと手放すのと裏町の借家に引っ越すのでは、ダメージが大違いだ。もはやインドシナ級に円安にしないと、アベノミクスは回らないだろう。

でももしここで、仮の話だが円高でリッチだったときに金額はいかほどであってもベーシックインカム制を導入していたらどうだろうか。仮に月に7万円でもベーシックインカム制にしていたら、貧乏劇団員とか売れないミュージシャンとかその他夢はあるけど資金と時間がない人々が大いに楽になり、円高に感謝したことだろう。そしてこの手の夢のある人が、多分にアングラかもしれないがとんでもない新しい文化を生み出して外貨獲得や日本の地位の向上に貢献していたことだろう。

更に日本人の多くがそれらの新しい文化を面白いと感じれば、日本全体がかなりリッ

瞑想録(その14)

チ感を得て、経済原則通りになったはずだ。そしてこの新文化、ベーシックインカム制がない現時点でもカラオケとか萌えとかオタクとか新文化を生み出しているほどだから、新文化が新たな高級収入源になってわざわざ円安誘導しなくても日本は稼げたかもしれない。

現実はこちらまで調子良くいかないかもしれない。理由は、ほかの国だってそれぞれ独自に頑張るからだ。それはその通りだが、だったら同じ理由でアベノミクスの民活が作動するわけがないではないか。ほかの国々もそれぞれ頑張るからだ。アベノミクスには実は、「日本だけ頑張ってほかの国はサボっていたなら」と言う調子のよい無言の仮定が隠されている。安倍さんは最近、「アベノミクス好回転のために数十兆円の予算を組む」と宣言したが、予定通りに民活が回っていたなら要らない予算付けだろう。

要するに日本人は勤勉で正直と言うが、裏を返せば自分が楽しむ方法を知らなさすぎる国民なのだ。円高の時にその差額の利潤を一生懸命会社の内部留保に貢いでいたのはほかならぬ出世したサラリーマン、つまり我々のような不真面目な奴隷でない単に従順な高級奴隷だった。結局日本には奴隷しか居ないのだ。

2016. 08. 01